

さわさだ

そうせい

全国曹洞宗青年会



2008.10
No.143



巻頭特集

お坊さんと話そう!

タイの古都チェンマイにおけるモンク・チャット(Monk Chat)の取り組み

ネットで楽しむ禅籍サーフィン 『正法眼蔵嗣書』 御真筆

お坊さんと話そう!

— タイの古都チェンマイにおける
モンク・チャット(Monk Chat)の取り組み —

古山 健一



タイ有数の国際観光地チェンマイに並み立つ古き寺々は、多くの外国人を惹き寄せる観光の目玉でもある。同地では、寺院を外国人の見学物から、僧侶が外国人に仏教と自国文化を伝える場としていこうとする取り組みがおこなわれている。



チェディルアン寺の境内でのモンク・チャットの様子。雨季で訪問者は少なかったが、参加者は熱心に話をしていた

チェンマイ

聖地ドオイステープ山を西に望み、母なる大河チャオプラヤの源流ピン川を東に望む古都チェンマイは、タイ北部の中心都市であり、歴史的な格式と経済発展の高さから、人口規模は低いものの、「タイ第二の都市」とも言われる。

タイ北部には、十三世紀末から十九世紀初頭にかけて、同じタイ族系の王朝ではありながらも、現在のチャクリー王朝(バンコク王朝)とは系譜を異にする王朝が存在していた。その国の名は「ラーンナー」と呼ばれている。チェンマイは、ラーンナーを建国したマンラーイ王により王都として建設され、爾来王国の栄枯盛衰とともに、独自の文化を育みつつ、その歴史の歩みを刻んできた。

地域の随所には、十四世紀後半から十五世紀後半にかけての、ラーンナー文化の隆盛期に創建された荘厳な大寺院の数々に加え、



スワンドーク寺の本堂と大仏塔。境内では少年僧らの文化祭が開催されていて、チェンマイ市内の各寺院から僧侶が集っていた

崩れかけた城壁や城門など、かつての繁栄を偲ばせる歴史的建造物が見られ、我々のノスタルジアをかき立てて止まない。都市の西側に広がる翠嶺の景観も見る者の心を魅了せずにはいない。このように豊富な観光資源を有するチェンマイには、国内・国外よりひきも切らずに人びとが押し寄せる。その数は現在、年間五三〇万人にも達し、外国人訪問者の数は一八〇万人もの大数を占めるという。

古き都からの新たな取り組み

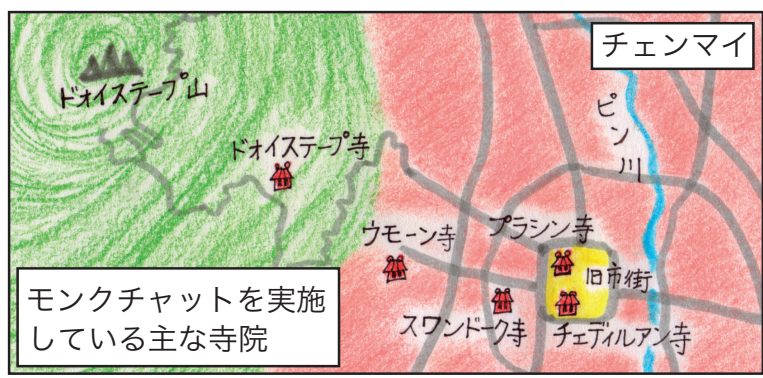
チェンマイでは、こうした大規模な観光地としての特性を活かした、若い僧侶たちによるユニークな布教の取り組みがなされている。

その取り組みとは、モンク・チャットと呼ばれるもので、外国人が多く訪れる有名な観光寺院において、その境内の一面にテーブルと椅子を並べ、語学の訓練を積んだ若い僧侶が座り、訪れた人びとが僧侶らと気軽に会話できるようにするというものである。

この取り組みは、王立マハーチュラロンコン仏教大学チェンマイ分校の学僧プラー・サナー・ダンマワロー博士が発案したもので、この分校で学ぶ僧侶らと、チェ

ンマイ旧市街の西の外れにあり、ラーンナー王国の王族の墓所として知られるスワンドーク寺（この寺院の境内地にチェンマイ分校がある）で修行する僧侶らを中心に、二〇〇〇年から開始された。

ダンマワロー師は、僧侶には
 (一)人びとを悪行から引き離す、
 (二)人びとに善行を勧める、(三)親切な気持ちで人びとに接する、
 (四)人びとが知らないことを教え



る、(五)人びとが持つ知識を正確で精確なものとする、(六)人びとに平和と幸福への道を示す、という六つの社会的な務め (Social duties) があると言う。これは師の仏教伝道における理念でもあり、当然モンク・チャットの活動にもそれが底流している。

現在、モンク・チャットは、スワンドーク寺のほか、「インタキーン」と呼ばれるチェンマイの都市柱を祀った旧市街中心部のチェディルアン寺、郊外にある十四世紀創建の瞑想道場ウモン寺、ドオイステープ山のドオイステープ寺などでおこなわれている。この活動は、寺院ごとに曜日と時間帯を決めて実施されており、参加者の数は、時季や場所にもよるが、



チェディルアン寺の境内に建てられたモンク・チャットの案内板

平均して一日に十人程度である。もちろん参加費は無料であり、活動に要する資金は種々の喜捨でまかなわれているとのことである。

これらの寺院では、目に付くところに僧侶らの手製の英文案内表示を掲げ、訪れた人びとを勧誘している（以前は日本語のものもあつたようである）。そこには、「仏教、タイ文化、僧侶の生活、その他なんでも。ここに来て私たちと一緒に話しましょう。見ただけで立ち去ってしまったのは残念に思います。皆さんが懐くどのような疑問でも、私たちと一緒に議論しましょう」などと書かれている。とにかく一緒に話をしましょうと、外国人観光客に呼びかけている。

モンク・チャットの

目指すところ

この活動には、次の四つの目的があると言う。

- 一、外国人に対して、一般的な話題について僧侶たちとちとけてお喋りする機会を提供する。
- 二、外国人が、仏教の基本的な考え方について学習し、意見交換や議論するための機会を提供する。



寺院の小堂で勉強に励む僧侶



夕の勤行。昔からの修行生活のいとなみは今日も続く



隣国スコータイより伝来の仏舎利を祀るといふスワンドーク寺の大仏塔

三、異なる文化や信仰や生活スタイルを持った人びとと仏教僧らが、互いに意見交換をするための場を提供する。

四、うちとけた雰囲気の中で、寺院の来訪者にタイ仏教の正しい情報を伝える。

このモンク・チャットの取り組みには、気軽なお喋りの機会を通して、僧侶らが外国人観光客（その多くはキリスト教徒である欧米人）にタイ仏教乃至タイ文化に関する種々の知識・情報を伝え、その理解を深めさせようという意図がある。モンク・チャットで僧侶から法話を聞いたことで、仏教に対する関心が生まれたとか、関心が一層増大したという欧米人も多いと聞く。さらには、仏教に改宗したという人までいるそうである。モンク・チャットをおこなう寺院の中には、希望者のための短期の瞑想指導プログラム（英語で指導）を併設しているところがあるのだが、僧侶とのお喋りがきっかけとなって、このプログラムにも参加することになったという外国人も少なくないようである。

と き た び こころの時代にこころの旅を

国内団参・海外仏跡巡拝の事なら経験豊かなビーエス観光へお申し付け下さい。

ビーエス観光グループ

先述のように、チェンマイには多数の外国人が訪れ、こうした観光地としての地域の特性をうまく利用して、海外に出なくても外国人への布教活動を可能ならしめる、あるいは、タイの歴史と文化を外国人に知らしめるというのが、このモンク・チャットの機能であるといえる。この取り組みを始めた背景には、発案者のダンマワロー師をはじめ、僧侶たちの自国の文化と仏教に対する強い自信と誇りがあると考えられるであろう。師は、この活動の意義の一つとして、「仏教と文化にかかわる観光を推進しているタイ政府の施策を手助けすることができる」ということも述べており、この取り組みを始めた背景には、国家への貢献という意識もあるようである。

さらに、このモンク・チャットには、僧侶らが外国人と積極的に触れ合う場を設けることで、僧侶に外国の宗教・文化について学ぶ機会を持たせようという意図も見える。これもまた観光地としての特性をうまく利用したもので、海外に行かなくとも僧侶の外国事情研修や宗教間対話・異文化間対話を可能ならしめる機能もそなえているといえよう。



文化祭でペットボトルのロケット発射実験を披露する少年僧たち

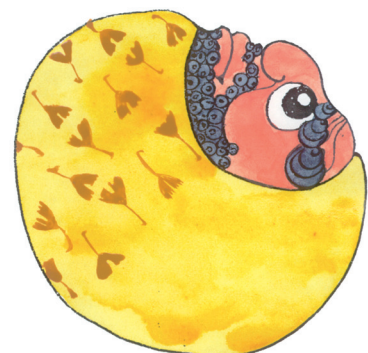
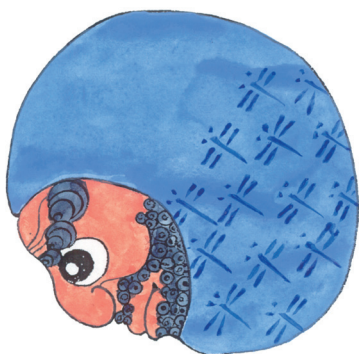
ところで、この活動に携わろうとする僧侶は、当然のことながら、外国語の能力を身につける必要がある。のみならず、外国人に仏教と自国の文化について話し、種々の質問に答えるためには、それらについての確固とした知識も身に付ける必要がある。モンク・チャットは僧侶の能力開発にも寄与しているといえよう。なお、タイの僧侶たちには、出家歴が長い者であっても、将来的には還俗することを考えている者も多くいる。外国語のスキルがあれば還俗後の生活の心配も少なくなる。こうした考えから、この活動への参加を通して外国語の学習に熱を入れる僧侶も少なくはないようである。

古山 健一（ふるやまけんいち）



一九七二（昭和四十七）年、神奈川県生まれ。現在、曹洞宗総合研究センター宗学研究部門研究員、同教化研修部門講師、駒澤大学仏教学部非常勤講師、本誌委託編集委員、博士（仏教学）。福井県霊泉寺徒弟。専門は東南アジアの上座部仏教の歴史と文化。

- 02 「お坊さんと話そう！」
— タイの古都チェンマイにおけるモンク・チャット (Monk Chat) の取り組み —
- 07 第38回九州曹洞宗青年会総会熊本大会報告
- 08 曹洞ユース — 新潟県曹洞宗青年会・佐賀県曹洞宗青年会 —
- 10 委員会紹介 — 法式委員会 —
- 12 そうとう衆列伝 — 東臯心越 —
- 13 寺族のテラス — お寺と私(寺族)を思うとき —
- 14 賛助会員御芳名
- 16 「禅」知識まんだら2 — 苦を観る瞑想と悟り —
- 18 環境問題のツボ — 第3回 真に「ゆたかに生きる」ための環境倫理 —
- 20 ネットで愉しむ禅籍サーフィン — 『正法眼蔵嗣書』 —
- 22 そうせいサロン
- 23 菜食健美
- 24 あまんずのダイアログ⑤ — 死別の悲嘆に「ひだまり」を 前編 —
- 26 曹洞宗の袈裟に学ぶ 第7回 — 高台寺の木像の掛絡(二) —



第三十八回九州曹洞宗青年会総会 熊本大会報告

平成二十年度、第三十八回九州曹洞宗青年会総会熊本大会が、平成二十年六月十九日に熊本市ホテルキャッスルにて行われました。

大会に先立ち執行部会、理事会

が行われました。その後、九州曹洞宗青年会舘会長が導師を務め、各県曹青年会会長の両班にて開講演説が行われました。

はじめに、松田副会長より開



会の辞が述べられ、続いて舘会長の挨拶として、まず岩手・宮城内陸地震、ミャンマーサイクロン災害、中国四川大地震など多くの被災者の方がたに対して哀悼の黙祷を捧げ、私たちは多くの犠牲の上に成り立っていると言うことを自覚し、九州は一つとして共に研鑽する場になりたい旨が述べられました。そして、来賓の全国曹洞宗青年会芳村元悟会長より祝辞をいただきました。

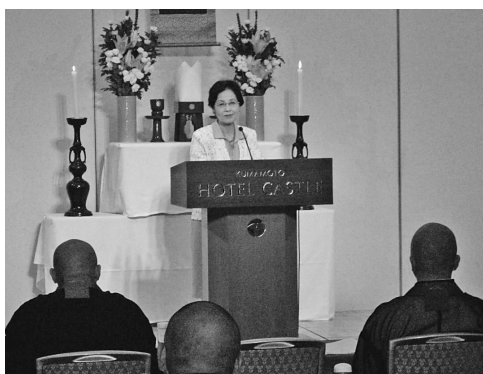
次に、議長選出により、福岡曹青の谷山隆光師が選出され議案審議に入りました。

- 第一号議案 平成十九年度事業報告
- 第二号議案 平成十九年度会計報告
- 第三号議案 平成十九年度会計監査報告
- 第四号議案 平成二十年度事業計画案
- 第五号議案 平成二十年度予算案
- 第六号議案として、会をよりよく運営するため九州曹洞宗青年会会則の改正案が承認されました。また、諸連絡事項として、各県活動報告、また、全国曹洞宗



青年会、九州管区センターよりあり、久野副会長の閉会の辞が述べられ、第三十八回九州曹洞宗青年会総会が無事閉会いたしました。

引き続き、記念講演として前熊本県知事、熊本県立大学客員教授潮谷義子先生から「3Cを自分の物として」(change, chance, challenge)と題する講演が、一時間半にわたり行われました。内容は、自然災害や縁もゆかりもない人殺しなど、かつて無いような時代であり、大きく変化しているまっただ中において、今私たちがどのように受け止め、何をなすべきかを考えるべきであり、人との関わり合いの中から感性豊かな人間性への回帰が必要で、人間の歴史は名のあるものだけでなく、名もなきものの繋ぐ歴史であり、老



いた人、弱き人を知り、差別のない社会を作る事の大切さを、ご自身の経験から優しく講演をしていただきました。

その後、懇親会が開催され無事円成いたしました。ころより参加者の皆さまには感謝を申し上げます。

また、総会当日舘会長の発案のもと、会場に災害被災者への募金箱が設けられ、皆さまから募金のご協力をいただきました。この日、集まった募金八万五千六百七十二円は、八月十一日付で「日本赤十字新潟支部」へ振り込みました。新潟支部になった理由は、締め切りの関係で新潟しか窓口が残って居なかったためです。ご了承願います。ころよく募金に、ご協力していただきました皆さま、誠にありがとうございました。



新潟県 曹洞宗青年会

活動紹介

発会 足...昭和五十四年
副会長 長...佐藤英俊
会長 長...鷲見芳正・竹田勝映
事務局長 長...五十嵐英紀
事務局次長 長...乙川文英
事務局長 長...小池宏道・赤羽義寛
会員数 計...永島昌英・笹川宗行
正会員 百三十七名
賛助会員 百六十二名
(平成二十年九月現在)

新潟県曹洞宗青年会は、昭和五十三年十一月、県内各地の青年会代表が集まって発足した連絡協議会を母体に、数回の準備会を経て昭和五十四年四月に設立されました。

表紙・裏表紙がカラー化されました。内容は、青年会の活動報告や会員の動静に加え、県内・県外の御老師方に寄稿していただいた特集記事を掲載しています。

(一) 使用済み蠟燭回収事業

会則にうたわれた当会の目的は「会員相互の連携と親睦の中に洞上の玄風を学び、教化の指針を探り、実践活動を通して健全な社会づくりを寄与する」というもので、県内に僧籍を持つ四十五歳未満の宗侶を正会員とし、会の目的に賛同し協力して下さる方に賛助会員として御支援いただきながら活動しております。

平成十三年より、使用済み蠟燭の回収を行っています。回収した蠟燭は、新潟市内の知的障害者授産施設に提供し、そこで行われているキャンドル生産作業の原料となります。



使用済み蠟燭から作られたキャンドル

(二) 機関誌『海潮音』の発行

当会の設立当初から継続して発行されており、正会員・賛助会員の他、県内全寺院に配布されています。ページ数は十二ページないし十八ページで、四年ほど前に判型をB5からA4に拡大、最近、

(三) 参学会

平成十六年、二十五周年記念事業のひとつとして「正法眼蔵参学会」が三回にわたり開催されました。これは、『正法眼蔵』の講義提唱を拝聴する他、拝読・拝書(対象となる巻を分担して書写する)を行なうことにより、『正法眼蔵』



結跏趺坐して『正法眼蔵』を拝読

にどっぷりと浸かろうというものです。この参学会が会員に好評だったため、翌年度以降も、内容や形式を少しずつ変えながら、毎年開催されております。

(四) ホームページ運用

二十五周年記念事業の一環としてホームページを開設しました。平成十九年に発生した新潟県中越沖地震の際には、ボランティア活動の報告の場として一定の活用がされましたが、最近は更新が滞っており、継続して運用することの難しさを実感しています。

(五) 親睦スポーツ大会

県内の各地域青年会が中心となってソフトボールのチームを作り、対抗戦を行います。元甲子園球

児を擁するチームがあるかと思えば、他チームから助っ人を迎えてようやく九人揃うところもあつたりとさまざまですが、チーム間に見た目ほどの実力差はないようで、どの試合も見応えのあるシーソーゲームとなります。



一球入魂

(六) ボウリング大会

歓迎迎会を兼ねたボウリング大会は、定例総会よりも大勢が参加する(これは誇るべきことではありませんが) 当会最大の定例イベントです。この大会に向けて日夜練習に励み、マイシューズ、マイボール持参で試合に臨む会員もいますが、こういう会員が上位を独占するとは限らないのが楽しいところです。

(七) 研修旅行

約二年に一度、国内外各地への研修旅行を行っています。本年は大本山總持寺祖院に拝登し、震災の被害と復興状況を自ら目で確認しました。



御誕生寺にて板橋禪師様の御垂垂を受ける

また、境内整備の進む御誕生寺を訪ね、板橋禪師様に親しくお言葉をお願いしました。入会間もない若い会員の中には、研修旅行で先輩と寝食を共にしたことがきっかけで、青年会の活動に気楽に参加できるようになったとの声も多く聞かれます。

(八) 周年事業

五年に一度、周年事業を行っています。平成十六年度には二十五周年記念事業として、市民参加型ミュージカル「ブツダ」を制作・上演した他、前述の「正法眼蔵参学会」を開催いたしました。平成二十一年度には三十周年記念事業が予定されております。

新潟県は全都道府県中第五位の面積を持ち、端から端まで移動するには高速道路を利用しても三時間以上かかります。県内には四つの宗務所があり、四宗務所合わせて約八百ヶ寺の寺院があります。面積も広く、宗務所も寺院数も多いため、県内全域の宗侶がともに活動するという機会はまずありません。

そんな中、宗務所の枠を超えて集うことができる当会の存在意義はたいへん大きなものであると自負しております。

今後、県内の青年宗侶がお互いにつながり、その絆をより強くできるよう、結集し、語り合い、自覚しつつ着実に活動して参りたいと思います。

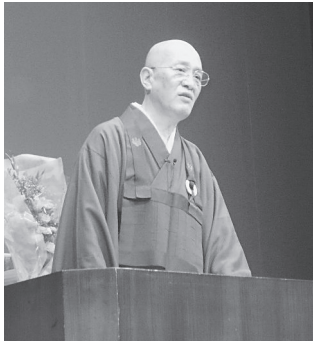


佐賀県 曹洞宗青年会

活動紹介

会 長 廣瀬正紹
副 会 長 平川康喜・金子哲之
事務局長 板橋俊道
会 員 計 川崎節雄
会 員 数 福地香雄
発 行 足 昭和四十一年
ホームページ
<http://www.sasousei.com>

佐賀県曹洞宗青年会は昭和四十一年から青年僧による和合と研鑽を目的とし、先輩諸師の努力と熱意により、今日まで受け継がれてきました。翌昭和四十二年七月には、第一回の「緑蔭禅の集い」が開催されるなど、活発な活動を通し、会としての組織の拡充、運営の基盤が築かれました。創設以来四十二年、その間の「緑蔭禅の集い」をはじめ「祖録を繙く会」「鉢」など、それぞれの時代とともに行われた各種行事や活動は、先輩会員の方がたの情熱と想像力の結集であり、積極的な参加により、その経験を通し、会員相互に一人の僧侶として研鑽を深め、寺



金子眞介老師



ラブガマ・ナーラダ師

院での布教活動に活かされてきました。会員数の減少など時代の変化とともにいくつか問題もありますが、これからも積極的な活動を続けていこうと思います。

現在、会員は六十名、佐賀県という地理的な優位性(端から端まで行っても車で二時間以内)を生かし、全会員を対象とした行事、研修会を行っています。

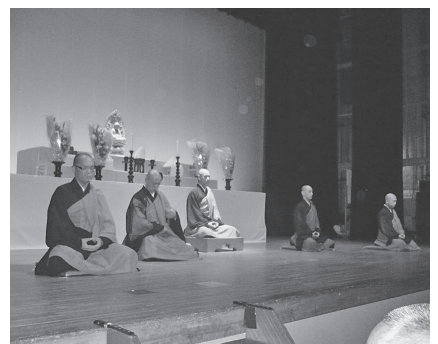
県内を佐賀・杵藤・唐松伊の三地区に分け、それぞれ独自に企画運営する三地区研修会では、三仏忌の法要など、その地域・時節の特長を生かした研修会を開催します。昨年は、消防署より講師をお招きし、AEDを使った救命救急講習会を開催し、実技を交え意義深い講習となりました。今後も時代に応じてさまざまな研修会が企画されることと思います。

また、特別養護老人ホーム「向陽園」の訪問は毎月の恒例行事として、会員が交代で訪問し、法要と法話、そして入所者の方がたとの茶話会を通し、布教伝道の実践練習の場を提供していただいています。毎年三月には施食会、その後カラオケなど懇親会を開き交流を深めています。

昭和五十六年に第一回が開催された「祖録を繙く会」では先学のご老師をお迎えし、我々僧侶の規範となる祖録の研修を行います。『正法眼蔵』など特定の祖録に限定せず、そのとき興味のある祖録を選び、企画しています。今回二十六回目の開催となる「祖録を繙く会」は来年の二月に開催を予定しております。内容は「お袈裟について学ぶ」と題し、お袈裟に関する祖録を学び、実際に絡子を縫い上げ

ることを目的としております。

「緑蔭禅の集い」は八月最後の週末に開催し、主催・企画・運営をしながら参禅者と一緒に坐禅を始めとした行持を行じながら、自らを見つめなおす研修の場であり、今年八月三十日には四十周年記念講演会を開催しました。現代社会はさまざまな問題を抱え、その根本的な解決方法はまだ見出せないのではないのでしょうか。一方で仏教に求められる働きはますます葬式・法事となりつつあります。この現状に対し、もつと仏教本来の働きを知ってもらいたい、こんな現代にあつてこそ仏教本来の働きこそ有効であり、そのことを情報として発信したいとの強い思いから、テーマを「こころの予防接種」今、あなたに必要な心のワクチン」とし、講師に長崎県禅心寺ご住職、金子眞介老師、東京青松寺サンガ所属で、スリランカ国籍の留学僧ラブガマ・ナーラダ師をお迎えしました。仏教本来の働き



40周年記念講演会

を考えた時、医療に例えるならそれはまさにワクチンのような働きではないか、特にさまざまな誘惑に満ちた現代にあつては、初めて目の当たりにする諸問題に対して適切な判断をするためにはそれなりの準備が必要であります。その準備を整える時有効な働きをするのが仏教というワクチンであり、現代にあつてこそ必要な機能ではないのでしょうか。当日の様子につきましては、当会のホームページをご覧ください。八月の時期を避け、十月の予定です。

そのほかにも定期総会、球技大会などの行事を通し青年僧による和合と研鑽を深め、僧侶としてその先にある仏教を現代に伝え、後世へと受け継ぐため、その力を蓄えるために青年会活動の場では失敗を恐れることなく、ともに経験・智慧を結集し、そして共有し活動できる会にしていきたいと思っております。



緑蔭禅の集い

合掌

D-I-G-I-そうせい『声明の手引き』

我々全国曹洞宗青年会法式委員会では、第十五期に現行の委員会名に改められてから、毎期毎に「DIGIそうせい」という、映像に

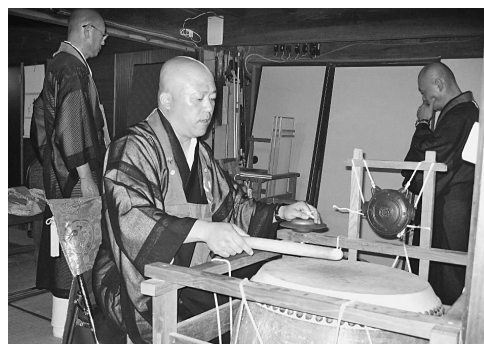
よる法式の資料を頒布して参りました。これは、世間一般にDVDが広く普及し始めたことを鑑み、今後は、差定集や音声による資料

を統合して、映像で残す方が、より伝わりやすく、また、学べることも多いと考えたためです。また、我々の活動に前後するように、さまざまな出版社や、各地の宗務所・青年会などからも、映像による法式資料が刊行されるようになり、それには、明らかに我々の用いた技法が応用されていることを見るに付け、決して無駄な事業とはなっていないと確信をしたのであります。

第十五期には『萬燈供養の手引き』、そして第十六期には『祈禱太鼓の手引き』を刊行・頒布し、それぞれ多くの皆さまが手にとってくださいました。たいへんにありがとうございます。そして今期は『声明の手引き』を制作しており、現在、編集作業の最後の段階に来ております。

『声明の手引き』は、監修として大本山永平寺副監院・春木龍仙老師を拝請し、御老師には合わせて、声明をお唱えいただき、それを練習用のコンテンツとして収録してございます。無論、各地域や、あるいはご自分がお就きになった

師によって、声明の唱え方も相違していることは存じておりますが、そういう習学機会を得ることなく、そして、今後自坊や地域の法要で声明を取り入れたいと思っ



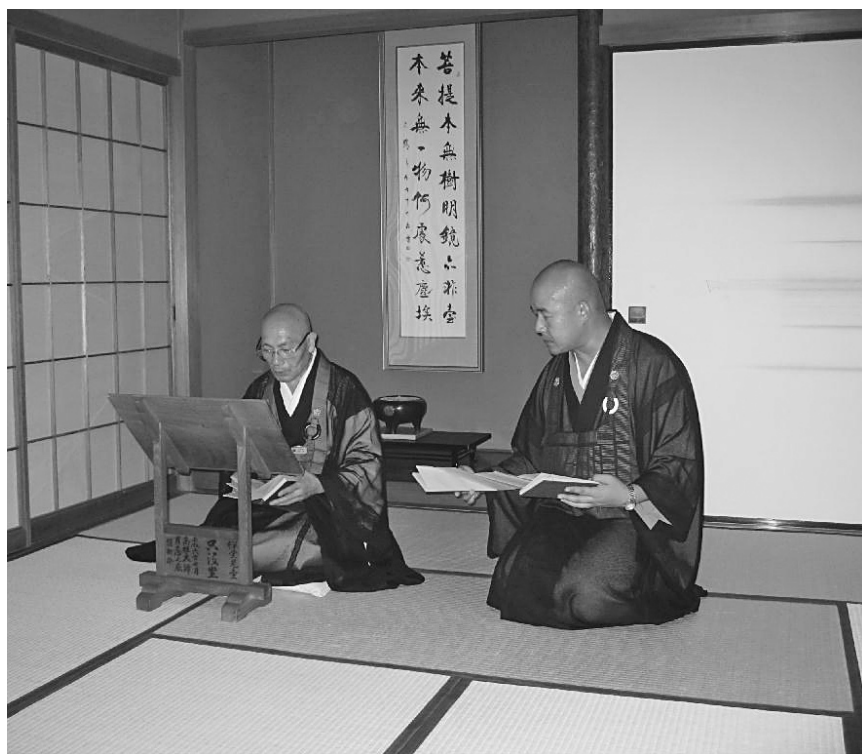
吉岐歎仏のサンテン

取り入れていたことが分かりますし、「或は施主巡堂のあひだ、梵音あり。」(『正法眼蔵』「看經」卷)という記述からは、施主供養で施主が巡堂している間、維那か唄師が僧堂にいて、声明を用いて供養文などを唱えていたことをうかがわせます。

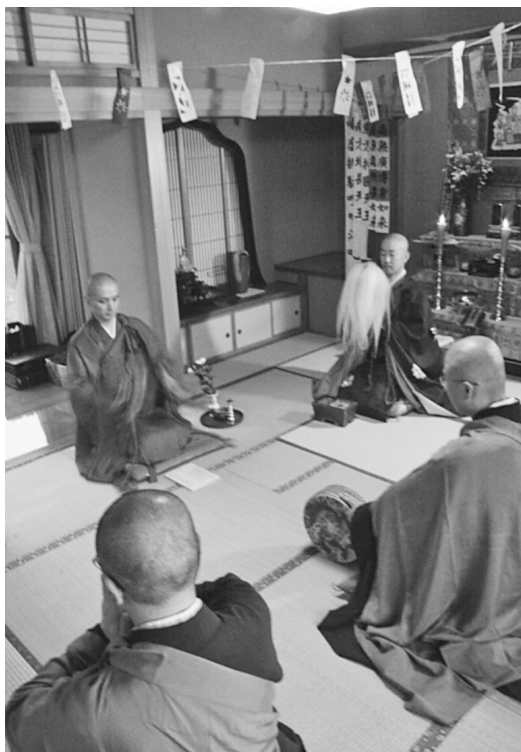
また、瑩山禪師におかれましても、施主供養の際の梵唄、あるいは僧堂で喫飯する際の後唄など、体系化された形で叢林に声明が取り入れられていることが分かります。これらからは、我々自身が法事・葬儀など施主の供養において声明を用いることは、古来から等しく修行されていると理解すべきであります。

現行の宗門が声明を使用している法要は、布薩・懺法・講式などがあり、さらに施食会や葬儀の場などで行われる念誦にも用いられています。講式以外は、本来の中国の禪宗寺院で用いられていることは明らかで、例えば中国叢林の作法をお伝えになった道元禪師にも声明を使っていたことが確認出来ます。また『羅漢供養講式』の式文といわれるものが残っている状況からは、当時の日本で天台宗や真言宗が行っていた「講式」を

このような事例からすれば、各地域で熱心に行われている懺法や歎仏など、多くの僧侶によって、長時間の法要を行うことは、布教教化において重大な意義があると思われましますし、また、日常の檀務に取り入れることにも意義があると考えられます。現在では後者の役目を、多くの場合「梅花流詠讚歌」が担っていることが多いと思えますが、それに合わせて声明も、諸仏の勧請や、あるいは式文に節を付けて詠むことで、また普段の空気とは質感の異なる厳肅さを醸し出すことになるでしょう。これこそ、古来の式文詠読の姿でもあります。今後、必要とされる法式



春木副監院老師と桑山副委員長



観音懺法(新潟県の一例)の様子

になるかもしれません。
さらに、今回は新潟県内で行われている観音懺法の一例というところで、新潟県内での撮影を行いました。また、長崎県壱岐島に伝えられている壱岐懺法についても、「お十夜」と呼ばれる法要の様子を収録してございます。全曹青として、全国の行持作法を収録するのは、勤めでもございます。合わせてご参照いただければ幸いです。
なお、委員長として個人的に残りなのは、今申し上げたような宗門における声明史、あるいは法の歴史的研究について、今期の活動でほとんど踏み込むことが出来なかつたことであります。これは、今のような現場の技術を重視する傾向に加え、さらに檀信徒に対して「なぜ、この法要を行うの

か」という情報開示を進めていくためにも、必ずや行われなければならぬものであると信じます。ところが、今回は我々の力及ばず、中途半端な成果になっております。つきましては、この懸案事項を補完するべく、当委員会主催で「声明講習会」を行い、講師の先生にその点のご説明などを十月末にお願いする予定です。その詳細は、別に申し上げます。
現在の予定としては、「声明の手引き」は次回の評議員会をもって、頒布の募集を開始し、年度内には皆さまのお手元に届くことを目標にしております。正式な発表があつた場合には、ご関心を持っていただき、是非とも頒布事業にご協力いただけましたら幸いです。よろしくお願い申し上げます。

各委員コメント

委員長・菅原 研洲

(宮城県曹青)



今回の「声明」DVDですが、これまでの「萬燈供養」「祈禱太鼓」と、先輩方が作り上げてきた作品同様、皆さまのお役に立てることを願っています。

委員・光英 覚法

(福島県曹青)



「声明」を通じてさまざまなことを学ばせていただきました。このご縁を大切に微力ながら精進させていただきます。

副委員長・桑山 良規

(和歌山県曹青)



宗門の声明を参究するとともに、法式委員会では、次世代に向けての新たな展開可能性をも念頭に置き、事業を進めてまいりました。声明がより広く身近になることを願います。

委員・永島 昌英

(新潟県曹青)



このたびはご縁をいただき法式委員という役に当たらせていただいています。微力ながら全力で勤めさせていただきます。よろしく願います。

会 計・市川 輝博

(静岡県第一曹青)



法式作法、行持進退法を青年宗侶らしいものの方でとらえ、映像資料によってわかりやすく体得できるように提供できればと思っています。

委員・森永 良徳

(佐賀県曹青)



私が、法式委員としての活動で、主に勉強をさせていただいたのは壱岐懺法です。先輩の方が若い僧侶に鳴らし物や主賛のやり方を惜しみなく教えられる姿に感動し、改めて自分が青年僧という恵まれた立場にいる事に気づかされました。

声明講習会のお知らせ

- 講師：東京都永見寺住職・葛西好雄先生
 日時：平成20年10月28日(火) 14時から (90分程度)
 場所：東京都港区2-4-7 青松寺様御山内
 交通アクセスなどは右のサイトをご参照下さい → <http://www5.ocn.ne.jp/~seishoji/>
 費用：無 料
 参加方法：事前に資料などを作る関係から、出席希望の方はあらかじめご連絡下さい。下記の委員長の連絡先、またはお知り合いの法式委員にお伝えください。
 電話：090-8782-2617 <委員長・菅原研洲>
 メール：tenjin95@mail.goo.ne.jp (同上)

東 卓心越 (二六三九〜一六九五)
は、心越興備としても知ら

れ、江戸初期に曹洞宗寿昌派を伝
来し、後に寿昌派の祖と仰がれた
渡来僧である。寿昌派は明代の無
明慧経を派祖とし、南京天界寺
覚浪道盛に連なる法系で、その派
名は江西省建昌府寿昌寺に由来す
る。

明崇禎十二年、浙江省金華府
生まれ。卓亭山翠微寺にて覚浪の
法嗣潤堂大文に参じ三十二才で
得法、杭州西湖畔の永福寺に住し
た。延宝五年(二六七七)三十九
才の時、長崎興福寺第四世澄一覚
亮の招聘により来朝する。延宝八
年の『日本来由両宗明弁』には、
明末の兵火を避ける為や日本で
改宗を迫られたことなどが記され
る。長崎では四年を過ごし、京都
宇治の黄檗山木庵性瑫、興聖寺
梅峰竺三信にも参謁した。天和元年
(二六八一)、儒学者朱舜水門下
今井弘済の仲介により水戸光圀に
招かれ、江戸の水戸藩別墅へと移
る。積極的に異文化を取り入れる
光圀の姿勢がここに窺われる。滯
在中は独庵玄光、天桂伝尊と相見
し、版橈晃全とも交流をもった。
天和三年(二六八三)水戸へ移

り、元禄五年(二六九二)五十四
才の時、岱宗山天徳寺にて連山交
易らの参列のもとに開堂、元禄八
年(二六九五)、五十七才の遷化
まで接化した。文化人としての一
面も持ち、書画や篆刻が多数現存
し、篆刻字典『韻府古篆彙選』
を将来した。また、

には現在の群馬県高崎市に少林寺
達磨寺を開創、卓卓を勧請開山と
した。なお、この寺で有名な「縁
起たるま」は卓卓の達磨図を手本
に作成されたものである。
正徳二年(一七二二)天徳寺は、
第四世大寂界仙の代
に寿昌山祇園

卓 卓 心 越



琴や琴譜を将来、『東卓琴
譜』を撰するなど「琴楽の再興」
とも称されている。

寺と改称さ
れ、開基を

遷化後、明音による読経や念仏
併修といった明代曹洞禅は会下へ
と引き継がれた。法嗣天湫法豊
は師の行法を『寿昌清規』として
編集し、また、元禄十年(二六九七)

水戸光圀、開山に卓卓を迎え寿昌
派総本山として独立し、以後、明
治に日本曹洞宗所属となるまで七
堂伽藍に五つの塔頭を持つ中国曹
洞禅宣揚の場となったのである。
なお、本年十一月、祇園寺にて開

山忌法要が盛大に営まれるとい
う。

参考資料には浅野斧山編『東
卓全集』の他、永井政之氏の論
攷「卓卓心越研究序説」等が詳
しい。また、杉村英治著『望郷
の詩僧―卓卓心越』、書画・篆
刻収録の茨城県立歴史館「特別
陳列 卓卓心越」などがある。

昨年中国へ赴き、寿昌派開連
寺院を訪ねる機会があった。南
京の天界寺跡は幼稚園となつて
いたが、住民の寺院復興の強い
願いが印象的であった。西湖畔
の永福寺は近年整備され、さな
がらテーマパークかとの印象を
受けつつも、寺院復興を眼に感
慨一人であった。



文・小早川浩大(こばやかわこうだい)

一九六八(昭和四十三)年、神奈川県
生まれ。駒澤大学博士後期課程単位取
得満期退学。現在、曹洞宗総合研究
センター宗学研究部門研究員。神奈
川県小田原市大長院住職。
画・山田 剛弥(やまだ たかひろ)

株式会社
中央デザイン
CHUO DESIGN CO.,LTD.

Desktop publishing
Print Industry

〒001-0010 札幌市北区北10条西4丁目 防災ビルB1
TEL (011)716-4813
FAX (011)716-4818
chuou-design@bz01.plala.or.jp

曹洞宗廣徳院・埼玉県

(本堂・客殿・齋場)



(株)翼工房社寺建築設計事務所

宇都宮市御幸ヶ原町135-31
TEL 028-613-5710 FAX 028-613-5690
http://www6.ocn.ne.jp/~tsubasak/



お寺と私(寺族)を 思うとき

三重県 陽珠院寺族 いりえ 江 京子

「え、お寺だったんだ!!」
これが三十年前の私の第一声
でした。

初めて遊びに行ったそこには、
なんと立派な山門があるで
はないですか!

私が危惧したとおり、そこか
ら家族の結婚への反対の音が起
こり始めました。

自衛官の父を持つ家族に育つ
た私と、世間から見ればきたり
りやお付き合いに厳しいという
印象のお寺への結婚はわざわざ
苦勞しに行くようなもの。これ
が家族の言う反対の理由でし
た。

家族の言うように、やはり私
自身悩みました。でもその悩み
を吹き飛ばしてくれたのは義母
の『自分の体も思うようになら

ないのに、あなたの気持ちや心
まで私の思うようにはしないか
ら、今のあなたでいいですよ』
という、この一言でした。

当初は『寺族』という言葉も
知らない在家からのお嫁さん
という事で、檀家の親戚な奥さ
ん達が、私がお墓(卵塔場)の
掃除をしているのを見計らって
はやってきて、色々教えてく
ださいました。

お墓での人との出会いは、私
にとつては初めてのことで、私
でとても楽しい毎日でした。辛
いはずのお寺での生活は、覚え
ることが山ほどある充実したも
のになりました。

寺族を意識し始めたのは、父
が申し込んでくれた曹洞宗寺族
のための通信教育の教材が届い

たときからでした。寺族会とい
う団体があるのもこのとき知り
ました。

添削されて戻ってくるレポー
トを見ながら義母は、『これも
あなたの沢山のつながりの一つ
と思えば力も抜けるものよ』と、
また素敵なアドバイスをくれま
した。その義母といえはお寺育
ちでなんでも知っている、尊敬
すべき寺族の先輩。そして多趣
味で知恵袋のような女性です。

もとより何にでも興味を持つ
私でしたので、
義母とともにボ
ランティアまっ
しぐらの二十九
年間を過ごして
きました。

大好きな料理
を色々な年代の
人に教えたり、
反対に教えても
らったりしなが
ら、檀家以外の
おばあちゃんや
おじいちゃんも
友達になりました。

環境問題では
EM菌(有用性
微生物群)を利
用して水環境の



小学生とEM菌の学習

浄化を進めている。いもっこ
思いは伊勢湾に、行動は台所か
らノノノに共感し、今では小学
校の環境学習に入り子どもたち
とも楽しく学習しています。

「お誘いがあるときが一番な
んでも出来るときだよ」
よく義父が言ってくれた言葉
です。

今は亡き義父ですが、義父が
背中を押してくれたおかげで今
の私があるのだと思います。

後継者を育てていく私たち寺

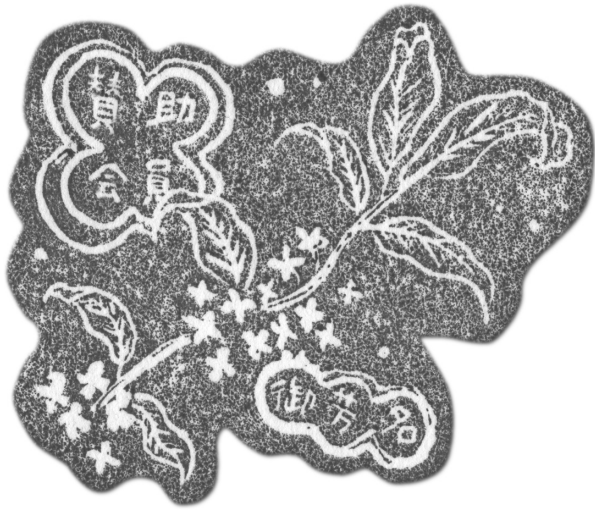
族は、住職と協力し合いながら
男女の違いに関係なく、お互い
を一人の尊敬すべき人間として
育てていかなければと思います。

今、寺族として、こうして育つ
ていく青年僧のためにも寺族自
身が宗制の中での寺族をまず知
ることだと思えます。そこで何
がおかしいのかを話し合える場
を作る事です。

不平不満の毎日を子ども達に
見せるより、自分の思いをしつ
かり伝えて、反対に、寺の生活
を楽しむ方法を見つけるほうが、
これから育っていく若い寺族の
ためにもなると思うからです。

134	精明寺様	88	明德寺様	228	雲泉寺様	258	陽山寺様	山形県第三	
143	瑞応寺様	鹿児島県	鹿児島県	236	東岸寺様	271	願成寺様	501	宝伝寺様
154	瑞仙寺様	1	福昌寺様	255	龍阜院様	281	光明寺様	623	歡喜寺様
159	大祥寺様	長野県第一	長野県第一	259	長樂寺様	289	前谷寺様	718	長淵寺様
161	般若寺様	39	盛伝寺様	265	東林寺様	292	永巖寺様	728	泉宝寺様
島根県第一		108	源真寺様	733	光明寺様	293	梅溪寺様	738	善応寺様
285	永昌寺様	119	龍洞院様	809	霊道寺様	327	観音寺様	秋田県	
島根県第二		147	徳応院様	福島県		427	双林寺様	17	補陀寺様
1	松源寺様	205	善應寺様	14	円通寺様	440	城國寺様	30	嶺徳院様
5	地福寺様	300	善威徳院様	63	昌源寺様	446	柳徳寺様	49	乘江院様
32	宗淵寺様	306	城光院様	81	萬休院様	岩手県		95	蔵昌寺様
58	洞光寺様	314	桃源院様	101	成林寺様	21	恩流寺様	116	龍安寺様
59	清光院様	317	宗心寺様	106	興隆寺様	25	寶積寺様	144	靈仙院様
63	龍覚寺様	358	安樂寺様	111	普光寺様	100	福蔵寺様	160	雲岩寺様
105	東白寺様	長野県第二		123	金剛院様	109	萬松寺様	174	満福寺様
111	万蔵寺様	389	宗福寺様	125	勝音寺様	120	菅生院様	206	松雲寺様
117	神光寺様	401	松岳寺様	133	永祿寺様	216	善龍寺様	281	月宗寺様
139	十楽寺様	489	祥雲寺様	143	西光寺様	233	玉泉寺様	284	善徳寺様
徳島県		541	観音寺様	226	常隆寺様	245	常樂寺様	292	常光寺様
17	江音寺様	549	自慶院様	227	龍台寺様	247	正福寺様	308	実相寺様
高知県		福井県		231	円通寺様	278	宝鏡院様	311	全應寺様
5	永源寺様	69	龍門寺様	238	法伝寺様	288	長福寺様	323	恩徳寺様
愛媛県		108	玉祥寺様	258	龍昌寺様	304	柳善院様	北海道第一	
1	高昌寺様	196	空印寺様	278	浄円寺様	319	観音寺様	5	大泉寺様
14	安樂寺様	269	御誕生寺様	314	隣松院様	青森県		18	高聖寺様
24	宗安寺様	石川県		318	安穩寺様	15	梅林寺様	65	法輪寺様
91	安樂寺様	101	千光寺様	352	大同寺様	17	普門院様	78	正林寺様
116	法龍寺様	富山県		369	正法寺様	43	夢宅寺様	94	曹源寺様
福岡県		149	薬王寺様	373	泰雲寺様	101	聖福寺様	96	観音寺様
20	宝林寺様	新潟県第一		401	常樂寺様	188	興雲寺様	北海道第二	
28	桂木寺様	3	瑞光寺様	446	天宗寺様	山形県第一		171	開原寺様
77	太養院様	341	雙善寺様	宮城県		5	光禅寺様	180	曹光寺様
102	能満寺様	342	光照寺様	9	瑞雲寺様	36	久昌寺様	181	永祥寺様
103	天聖寺様	346	繁慶寺様	24	妙心院様	113	洞興寺様	239	禅昌寺様
158	報恩寺様	366	清岩寺様	32	永昌寺様	182	養源寺様	304	永昌寺様
大分県		366	清岩寺様	35	龍雲院様	208	普門寺様	北海道第三	
24	海門寺様	384	庄川寺様	46	宝船寺様	217	円応寺様	146	晃徳寺様
76	福巖寺様	389	雲居寺様	50	道安寺様	241	福昌寺様	198	吉祥寺様
110	大泉寺様	393	曹源寺様	198	積雲寺様	山形県第二		204	開法寺様
129	華蔵寺様	397	善昌寺様	205	龍川寺様	417	繁應院様	215	法光寺様
147	有近寺様	400	東福寺様	237	円通寺様			224	禅龍寺様
174	観海寺様	408	昌福寺様						
長崎県第一		418	定正院様						
1	皓臺寺様	450	西福寺様						
2	菩提寺様	475	天昌寺様						
8	円福寺様	496	長樂寺様						
26	鏡圓寺様	728	妙喜寺様						
佐賀県		新潟県第三							
15	静元寺様	514	長命寺様						
18	久善院様	563	龍光院様						
76	長興寺様	637	洞泉寺様						
200	天福院様	646	名立寺様						
熊本県第一		新潟県第四							
3	報恩寺様	70	永谷寺様						
13	浄国寺様	82	養廣寺様						
59	円通寺様	86	頼勝寺様						
熊本県第二		110	鑑洞寺様						
73	遍照院様	144	瑞雲寺様						
78	地藏院様	189	東泉寺様						
79	向陽寺様	204	養泉寺様						
		217	諸善寺様						





平成20年6月～平成20年8月

東京都		75	長松寺 様	茨城県		1106	大蔵寺 様	滋賀県			
60	陽寿院 様	92	浄山寺 様	32	龍泰院 様	1174	蔵法寺 様	10	青龍寺 様		
86	天徳院 様	93	光秀寺 様	57	常安寺 様	1177	礼雲寺 様	38	仲明寺 様		
107	天桂寺 様	99	常源寺 様	134	大統寺 様	愛知県第一					
154	増福寺 様	107	松源寺 様	197	長龍寺 様	35	乗円寺 様	160	長谷院 様		
166	慈照院 様	116	梅田寺 様	千葉県			京都府				
171	高岩寺 様	138	心鏡院 様	8	重俊院 様	73	廣徳寺 様	73	春現寺 様		
175	高泰宗寺 様	151	医王寺 様	59	宗徳寺 様	123	昌光寺 様	149	普濟寺 様		
177	清巖寺 様	161	建福寺 様	95	寶應寺 様	355	聚福院 様	369	佛名寺 様		
179	大松院 様	166	全龍寺 様	165	広巖院 様	386	清学寺 様	389	龍猷寺 様		
199	大松寺 様	394	香林寺 様	247	東照寺 様	629	法持寺 様	94	洞養寺 様		
235	金光寺 様	416	昌福寺 様	296	東善寺 様	635	全隆寺 様	大阪府			
258	東光寺 様	436	陽雲寺 様	山梨県			5	臨南寺 様	19	齡延寺 様	
292	乾晨寺 様	441	金剛寺 様	94	文殊院 様	644	洗月院 様	26	天徳寺 様	94	黄梅寺 様
294	観栖寺 様	埼玉県第二			115	海潮院 様	652	地蔵寺 様	奈良県		
356	宝蔵寺 様	238	松林寺 様	320	宝泉院 様	1119	常宿寺 様	25	宝泉寺 様	兵庫県第一	
380	萬福寺 様	258	能仁寺 様	392	慈照寺 様	1124	常樂寺 様	287	向榮寺 様	324	願成寺 様
389	立川寺 様	260	長光寺 様	454	大公寺 様	1140	神龍寺 様	340	永春寺 様	353	永春寺 様
神奈川県第一			283	長泉寺 様	558	安福寺 様	1169	永澤寺 様	兵庫県第二		
197	福田寺 様	325	金澤寺 様	静岡県第一			1191	増福寺 様	121	徳寿寺 様	
264	慶林寺 様	331	曹源寺 様	2	瑞光寺 様	愛知県第二			173	瑞雲寺 様	
352	吉祥院 様	345	成安寺 様	11	長栄寺 様	684	智光院 様	216	龍雲寺 様		
358	城願寺 様	569	長青寺 様	67	宝寿院 様	686	観音寺 様	225	大雲寺 様		
神奈川県第二			群馬県			877	智光院 様	244	善心寺 様	岡山県	
2	西有寺 様	56	玉泉院 様	95	久應院 様	972	真増寺 様	131	济渡寺 様	広島県	
14	傳心寺 様	82	長信寺 様	152	宝持院 様	997	真増寺 様	岡山県			
16	正観寺 様	83	常仙寺 様	165	光明寺 様	愛知県第三			7	伝福寺 様	
21	東照寺 様	89	龍昌寺 様	185	三明寺 様	422	安楽寺 様	13	延命寺 様		
74	観音寺 様	167	祥雲寺 様	401	旭傳院 様	512	清涼寺 様	22	光禅寺 様		
77	龍宝寺 様	194	善宗寺 様	421	盤脚院 様	600	勝楽寺 様	23	阿弥陀寺 様		
111	福泉寺 様	223	龍泉院 様	461	心岳寺 様	1235	太平寺 様	34	吉祥寺 様		
126	常泉寺 様	309	永福寺 様	静岡県第二			74	観修寺 様	46	雙照院 様	
131	乗福寺 様	343	大林寺 様	230	宗徳院 様	岐阜県	75	地藏院 様	48	真観寺 様	
158	龍泉寺 様	栃木県			242	眞珠院 様	80	龍泰寺 様	60	香積寺 様	
383	観音寺 様	1	成高寺 様	321	円心寺 様	110	桂昌寺 様	67	西福寺 様		
埼玉県第一			51	豊栖院 様	325	海蔵寺 様	148	円頂寺 様	88	運西寺 様	
3	円通寺 様	99	長泉寺 様	静岡県第三			162	清楽寺 様	89	積善寺 様	
6	法性寺 様	105	大雄寺 様	230	宗徳院 様	177	大隆寺 様	102	潮音寺 様		
16	慈眼寺 様	119	宗源寺 様	242	眞珠院 様	190	長久寺 様	152	雲龍寺 様		
49	昌福寺 様	125	長興寺 様	321	円心寺 様	三重県第一			181	東明寺 様	
59	長龍寺 様	埼玉県第二			325	海蔵寺 様	31	永源寺 様	185	明福寺 様	
埼玉県第一			51	豊栖院 様	静岡県第四			36	法安寺 様	山口県	
3	円通寺 様	99	長泉寺 様	585	成因寺 様	37	四天王寺 様	37	四天王寺 様	4	宝蔵寺 様
6	法性寺 様	105	大雄寺 様	1185	満願寺 様	77	新堂寺 様	77	新堂寺 様	15	源久寺 様
16	慈眼寺 様	119	宗源寺 様	1242	寛永寺 様	152	観音寺 様	152	観音寺 様	120	長徳寺 様
49	昌福寺 様	125	長興寺 様	静岡県第四			165	陽珠院 様	138	善福寺 様	
59	長龍寺 様	埼玉県第二			1095	天林寺 様	240	安心寺 様	212	功山寺 様	
埼玉県第一			51	豊栖院 様	三重県第二			316	剣光寺 様	249	福田寺 様
3	円通寺 様	99	長泉寺 様	585	成因寺 様	371	光明寺 様	鳥取県			
6	法性寺 様	105	大雄寺 様	1185	満願寺 様	377	海禅寺 様	1	興雲寺 様	28	森福寺 様
16	慈眼寺 様	119	宗源寺 様	1242	寛永寺 様	392	大義院 様	70	隆光寺 様	81	大岳院 様
49	昌福寺 様	125	長興寺 様	三重県第一							
59	長龍寺 様	埼玉県第二			三重県第二						

苦を観る瞑想と悟り

地橋 秀雄

「瞑想中に経験される苦とは、どのようなものでしょうか？」と問われました。その真意は、原始仏教の根本概念である「一切皆苦」についてです。苦（ドウツカ）について考えてみようと思います。

現象世界のすべての事象に「苦」の本質を観るのは、原始仏教のきわだった特色です。そもそもブツダの悟りは苦からの解脱であり、苦がなければ悟りも解脱も意味をなしません。原始仏教のエッセンスは（四聖諦）に集約されますが、それは「苦の現状認識」に始まり、「苦の原因」と「苦の超克（＝解脱）」が示され、最後に「苦を超克する方法論（八正道）」が提示されるというものです。

ブツダ最晩年の言行録である「大般涅槃経」には、「スバツダよ、どのような教えや戒律であつてもよい。八正道が存在するところには、預流果の聖者、一來果、不還果、阿羅漢果の聖者が現れるだろう」（意訳）と述べられています。つまり、四十五年間、さまざまなダンマを説いてきたブツダが、最

後に述べたことは、八正道がありさえすれば未来にも悟る人間が現れるだろうという言明でした。私自身、テラワワダ仏教の比丘の方がたから八正道の厳密な解説をうかがってみると、そこには、苦を超克する方法論が段階的かつ極めて実践的に提示されており、眼からウロコが落ちるような感動を覚えたものです。

しかし、すべての事象のなかに苦（ドウツカ）を観なければ原始仏教そのものが成り立たないにもかかわらず、その苦がよくわからず、と疑問を感じる方が少なくありません。この世も、人の命も、美しいものであり、存在の世界は肯定されるべきものではないか。なぜ、一切皆苦なのか……と、ヴィパッサナー瞑想を学び始めた方がたから同じ質問を何度も受けました。

「病气や災害、争い、失恋、離婚、裏切り、死、戦争……など、この世に苦が満ち満ちていることは誰でも納得しているし、疑いの余地

はありません。しかし苦もあるが、幸福もあるではないか。苦受もあれば楽受もあるのに、なぜ一切皆苦なのか。お釈迦さまも、アーナツダよ、ヴェーサーリーは楽しい。ウデーナ霊樹は楽しい。ゴータマカ霊樹は楽しい。……この世界は美しいものだし、人の命は甘美なものだ、と仰っているじゃないですか……」

たしかに、一切皆苦を説いたはずのブツダが最晩年になって、謎に満ちた矛盾の言葉を発しているように思われます。明確に煩惱を否定してきた仏教が、最後の土壇場で「人の命は甘美なものだ」と官能を讚美し、「この世界は美しいものだ」と現象世界を称えるのか。甘美な命のいとなみを賞讃するのであれば、新しい命を生み出す愛欲も、生存欲も、果てしなく繰り返される輪廻も、肯定しなければならぬではないか……と、私自身も長年に渡って「この世界は美しいものだし、人の命は甘美なものだ」という言葉に惑わされ

続けてきました。

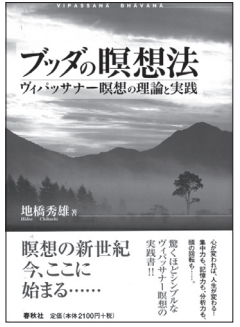
歳月が流れ、やがてこの一行は、パリー語の原典には存在せず、後世のサンスクリット本に付加されたものであることを知ったときにはガーンと衝撃を受けました。誰がそんなことをしたのだ……と愕然としましたが、しかし原始仏教はやはり、一切皆苦に始まり、八正道の実践によって苦を滅ぼしていく解脱のシステムなのだ、と積年の迷いを晴らすことができました。

さて、なぜ、一切皆苦がわかりづらいのでしょうか。ドウツカ（苦）を整理して考えてみましょう。仏教では、苦を三層構造で理解しています。

まず、誰の目にも明らかな苦の状態を「苦苦（ドウツカ・ドウツカ）」と言います。現代でも、世界中のいたるところで、恐ろしいドウツカ（苦）に呑み込まれ、圧倒され、傷ついている人たちがおります。苦を乗り越えていくためには、どうしたらよいのでしょうか。

仏教が明確に提示しているのは、悪を避け（諸悪莫作）、善をなし（衆善奉行）、自分に与えられた環境の中で、できるかぎり徳を積んでいくことです。この倫理的規範こそ、苦を滅ぼすシステムである仏教の大原則です。

瞑想の新世紀、
今、ここに始まる。
…ヴィパッサナー瞑想の世界。



ブツダの瞑想
地橋秀雄 著
2006年5月発行
春秋社
¥2100+税



瞑想クイック・マニュアル
地橋秀雄 著
2007年12月発行
春秋社
¥1600+税

その「苦苦」を完全に乗り越えたかのような人もいます。例えば、釈迦族の王子だったブツダは、誰もが憧れる諸々の幸福の条件をすべて兼ね備えていたように見えません。一切皆苦がわからなくなるのは、そのような幸せに満ち満ちた人たちに出会ったときです。果たして彼らにも苦はあるのでしょうか。

「幸福の王子」たちにも、次元の異なった苦が存在するのです。それは、楽受が消えていく寂しさや、幸福が変滅していくという苦しみです。愛にも人の関係にも終わりがやってくるし、頂点に達した快楽は失われていきます。どんなに美しい人も歳をとり、老いていくのです。現象の世界に存在するものはすべて無常の法則に貫かれ、壊滅していく宿命にあります。「無常」そのものが苦なのです。これを「壊滅苦(ヴィパリナーマ・ドウツカ)」あるいは「変移苦」と言います。

この段階の苦は、存在の世界の構造そのものにかかわるものであり、免れようがありません。幸福は存在するが、崩壊していく……。命あるものはひとつの例外もなく、「同一状態を保つこと」の「不可能性」という「無常の苦」に直面する定めなのです。もしかり

に幸福が固まって変化しなかったとすると、そんな状態にはすぐに飽き飽きしてしまうのが人の心です。

……ここまでくると、出家を決意した若きブツダの出発点に近づいてきます。幸福をどこまで極めても苦はなくならないことを検証してしまつた者には、後もどりのできない解脱への道が残されているだけです。

一切の苦が減ばされた絶対的な安らぎの世界はないものか。無常の苦を乗り越えることはできないのか……。これは、現象世界そのものの限界に対する挑戦です。梵我思想のブラフマンやタオイズムの道(タオ)のように、万物万象の究極原理と一如になつたところで、存在の世界、無常なる世界、因果の世界から出ることはできません。凡夫も聖者もネコもハヤブサも、肉体は必ず劣化し、古靴のように老いさらばえていくのをいかにともしがたいのです。ブツダの悟りが、この世を完全に捨てきつた出世間の方向に向かつていったのは必然の流れであつたと思われまふ。

3番目の苦は、「行苦(サンカラ・ドウツカ)」と呼ばれます。「サンカラ(行)」とは、多くの力が集まって新しいものを作つて

いく「力」を示しています。同時にその力によつて古いものが壊されていくので「壊れる」意味も含まれており、現象世界を展開させている根本の働きがサンカラと考えてよいでしょう。「形成力」と訳されたりしますが、五蘊(色受想行識)の「行」の場合には、怒りや高慢や嫉妬など、諸々の反応の心の意味になり、この場合には、「行」=「業」になります。

一瞬一瞬の心の反応が業を形成し、未来に現象を生起させる原因になつていくので「現象生起力」と訳すこともできるでしょう。

「行苦」とは、現象世界を展開させている根本の働きには「苦」の性質が内在しているということ。この場合の苦は、「不完全性」「不安定性」「拘束性」などの意味が優勢です。サンカラとは、現象の世界を形成する力であり、壊す力でもあり、一瞬一瞬の心の反応が出力する業の力でもありません。「壊滅苦」の無常性や、あらゆる事象が逃れようのない因果のエネルギーで織りなされている拘束性など、諸々の苦の要因が包含されているのです。

ヴィパッサナー瞑想の観察モードに入ると、概念の世界が完全にシャットアウトされ、見たまま、聞いたまま、感じたままに、すべ

ての現象があるのままだに意識に焼きついていきます。サティとサマデーイがバランスを保ちながら成長してくると、真空のような明晰さで対象が知覚され、間髪を入れず突き刺さっていくサティの速度が高まり「瞬間定」が成立してくるでしょう。驚くべきスピードにサティが高速化していくと、事象が生起して一瞬とサティとともに滅していく一瞬が、異様なまでの明晰さでハッキリと覚知され、圧倒的な速度とその壊滅性に打ちのめされるのが「無常を観る」としてした。

「行苦」の中にさらなる一歩を踏み込めば、無常の苦のみならず、因果の拘束性という恐るべきドウツカが目当たりになってくるでしょう。次の瞬間、心が何をとらえるのか、意識の流れがどのように展開していくのか、心も事象も何もかも因果の拘束性のなかで刹那の生滅を無意味にくり返しているに過ぎない。その救いようのないドウツカ(苦)に圧倒されると

き、もはやこの世のどこにも居場所はなく、否も応もない力で、ただ涅槃に向かっていくしかなくなるのです。

地橋 秀雄(ちはしひでお)



一九四八年生まれ。早稲田大学文学部卒。一九七八年より瞑想修行を始め、タイ、ミャンマー、スリランカ等で修行を重ねる。グリーンヒル瞑想研究所所長。朝日カルチャーセンター講師(ブツダの瞑想法とその理論)。グリーンヒルWeb会出版)など。

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

梅金商店 株式会社

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904



第3回

真に「ゆたかに生きる」

ための環境倫理

環境問題は地球温暖化に集約

されると思わせるような熱狂的な「温暖化バブル」とでも言いたくなるような渦の中で、生物多様性問題や、廃棄物対策などの重要な環境問題は中心的な課題として報道されないまま、洞爺湖サミットが終わった。その結果、温暖化においてさえも、さしたる成果もないまま、いま、私たちは立ち止まっている。地球温暖化は炭酸ガスの増加が主要な原因ではないという、「懐疑論」は、十年前には、アメリカの石炭産業界のバックアップもあって、欧米では盛んに行われたが、当時は日本では、その種の懐疑論はほとんど紹介されなかった。日本では地球温暖化の原因に関して報道管制がなされているのではないかと専門家の間で囁かれるくらい不気味な状況であった。しかし、欧米での「懐疑論」は、IPCCの第三次報告が説得的であったこともあり、ほとんどなりをひそめていた。その一方で、

日本では、その「懐疑論」が昨年の秋からメディアで取り上げられるようになり、なんとも奇妙な状況になっていった。洞爺湖サミットの後には、その種の出版に拍車がかかっているような状況である。温暖化バブル」の反動もあるのだろうが、環境問題など気にせずに資源やエネルギーの浪費的な生活を送っても構わないとも言わんばかりの論調が、専門家としての誇りと矜持もどこに行つたのかと思われるほどのおぞましい形で繰り広げられている。そうした両極端の論調の中で、私たちは何が正しいか分からないままに、右往左往を余儀なくされている。

私たちは「環境問題」を考える際に、メディアによる膨大な情報に踊らされることなく、真に本質的で重要な問題が何かを見て取ることが求められている。そのためには、環境の問題を、根本の原理から、理念的なところで考え、その理念の中で、メディアによって

展開されている環境問題をきちんと位置づけ判断することが重要であろう。そのための指針を提供するのが「環境倫理」である。それゆえ、「環境倫理」は、そもそも、人間が自然の中で生きていくこととはどういうことかということから問わなければならない。それは、自然的環境によって私たちの生活が限定づけられているということでもあり、また、私たちが、豊かな（生物多様性の高い）自然のままに恵み（前回に述べた、「生態系サービス」がそれにあたる）を享受するということでもある。自然の脅威と恵みの中で、私たちは「ゆたかに生きる」ことを考えなければならぬ。

そのように冷静に考えれば、すぐに分かるように、地球温暖化ばかりが環境問題ではなく、どういう形であつても炭酸ガスを減らせば問題の解決になるという単純なものでもない。また、地球温暖化の主要な原因が炭酸ガスであろう

となかろうと、近代以後続いていく、資源とエネルギーを浪費する生活スタイルや生産システムは見直さなければならないのは当然である。「環境問題」を云々する以前に私たちは既にそのような「時代」ではなくなっていることを、実感として感じ取っているはずである。

また、かつては普通にあつた日常的にふれあえる自然は減つてしままい、子どもたちが日常的に自然とかかわれる機会はますます減つている。自然が残つていても、外来種の動植物が跋扈して、童謡や文学に出てきたり、四季折々の自然に根ざしたさまざまな文化的行事に使われるような動植物が絶滅危惧種になり、いなくなつてい

る。春の小川に普通にいた、ドジョウやフナ、カエルたちはどこに行つたのか。秋の七草に出てくる植物も稀少種となり正月の七草粥に使われる植物はマーケットにはあつても、日常世界から消えてしまつた。そのような日常的な「自然」が失われてきて、そもそも、そういうところで、子どもが健やかに育てられるのであろうか。そのような疑問を抱く方も少なくないのではないか。若いときには活気のある大都会がよくても、ある程度落ち着き、結婚して子どもを育てようと考え始めると、大都会ではなく田舎の方で育てたいと思う人たちは、最近では、増えてきている。そう思つても、三十代から四十代の人たちが郷里に帰つても



なかなか仕事がなくやむなく諦めている人も多い。

そのように、「日常的に、「自然」がなくなり、精神的に豊かな生活をするのができなくなっていることは、一方では、私たちが、近代以後、日本においては特に高度経済成長期以後、利便性を追求し、自然をコントロールして経済的豊かさを守ろうとしてやってきたことが深く関係している。私たちは、電気や工業製品などの生産のための工業開発、機械化に対応した農業を可能にする農地開発、大規模な住宅開発や道路開発、さらにはリゾートなどの観光開発などにより、浜や干潟などの里海を埋め立て、身近な森である里山を破壊し、治水や都市の水資源確保のためにダムなどの構造物を造って、里川の自然を破壊してきた。利便性や経済的豊かさを守ることを優先することによって、私たちは精神的な豊かさを根拠とする身近な「自然」を犠牲にしてきたのである。そして、資源やエネルギーを浪費する生活スタイルと、社会経済システムはそのことを加速し、大規模な形でおこなってきた。ここに環境問題の原点がある。

河の加速的融解により、また、島嶼国で海面上昇により、それぞれ、その地の身近な自然や生活そのものを脅かしている、地域的な環境問題であることを忘れてはいけません。また、その主要な原因とされている炭酸ガスの排出は、地球温暖化の主要な原因であるかどうかに関わらず、私たちがそれだけエネルギーを過度に消費尽くしていることであり、身近な自然も含めて、地域の自然的な条件の中に限定づけられて生活せざるを得ない私たちにとって、異常な状況であることは、十分に認識すべきであろう。

十七世紀に近代が始まり、十八世紀の末から十九世紀にかけて産業革命によって、「自然」を効率よく利用し、コントロールしていく術を私たちは得ることになった。二十世紀は、二つの世界的な戦争を経て、科学技術は大規模な国家的な推進体制の中で、自然をコントロールし合理的に利用し尽くすことができるという幻想を持つようになり至った時代であった。二十世紀の末から二十一世紀になって、環境問題の激化と、それに伴う多発化、大規模化する自然災害に向かい合うようになって、私たちは、自然をコントロールすることが、根源的に、原理的にできないこと

にやつと目覚めたのである。私たちは、すべて予測可能で確実な科学知識をもとに、科学技術により、自然をコントロールできるということが幻想であることを自覚し、自然に関しては、根源的に不確実な情報の中で、どのように自然とかわり、私たちの生活を設計していくべきか、ということを改めて自覚せねばならなくなった。それゆえ、それぞれの地域社会で、与えられた自然的な条件の中で、しかも、不確実な情報を前提にして、自然とうまくかわりあ

いながら、持続的に利用できるあり方を模索して、そのような社会システムをデザインしていかねればならないことになったのである。そのような中で、地球温暖化のようなグローバルな問題も、廃棄物問題も、自然保護も含めた形の国土管理のあり方を考えていかなければならないのである。グローバルな環境問題もローカルな地域の環境問題として考えていかなければならないのはそのためである。

私たちは、かつて、自然の脅威におびえながらも、豊かな自然の中で生きてきた。私たちの生活を過去に戻すことはできない。しかし、そのようなかつてのあり方を今一度見直し、地域に蓄積されて



「環境倫理」はそのための道筋を示すものであり、自然との豊かにかかわりのなかで、「ゆたかに生きる」ことはどういうことかを根本的に問いたすことである。

鬼頭 秀一 (きとう しゅういち)



東京大学大学院新領域創成科学研究科(社会文化環境学専攻)教授。専門は、環境倫理学、科学技術社会論。一九五一年生れ。名古屋出身。東京大学大学院理学系研究科博士課程単位

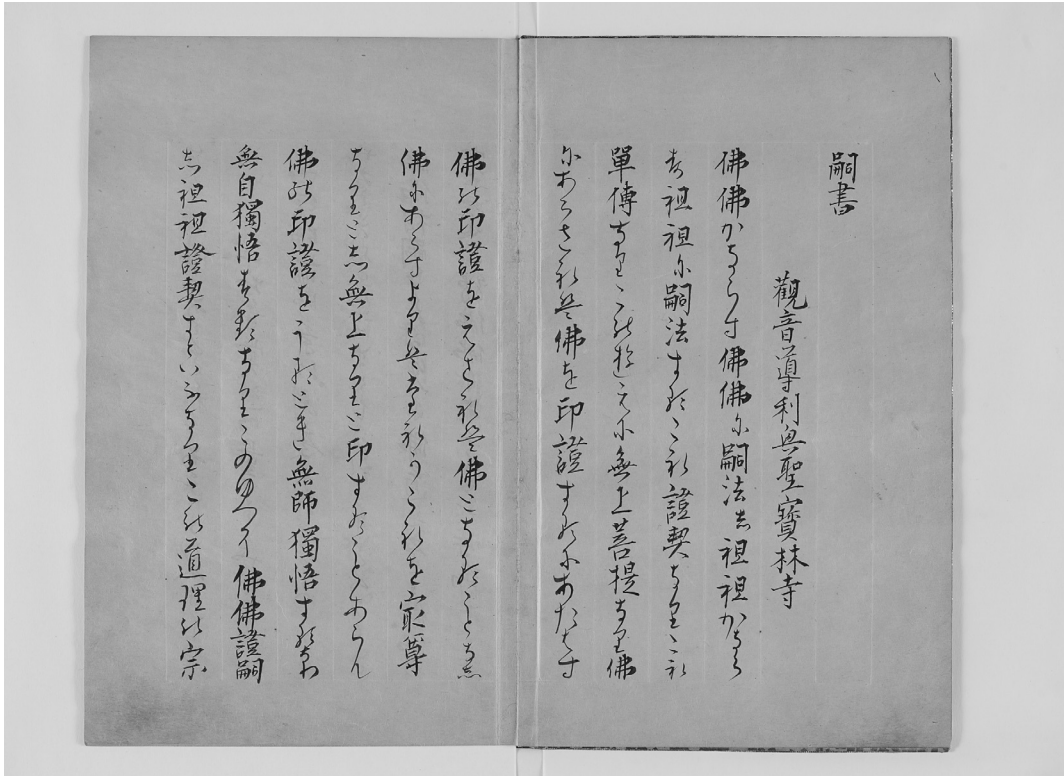
取得退学。青森公立大学教授、東京農工大学教授、恵泉女学園大学教授などを経て現職。白神山地や諫早湾などを現場を歩きながら、環境の理念にかかわる問題を「環境倫理学」として形にしていく学問的試行を重ね、社会的リンク論を提唱している。

最近では、生物多様性保全や自然再生の現場で、生態学者と積極的に対話をしつつ、人文社会科学の寄与のあり方を模索している。「生物多様性モニタリング」(東京大学出版会)共編、「環境の豊かさをもつめて」(昭和堂)編、「自然保護を問いたす」ちくま新書、など。

ネットで愉しむ
禅籍サーフィン

収蔵品紹介

『正法眼蔵 嗣書』



駒澤大学キャンパス内、大正ロ

マン漂う耕雲館（東京都歴史的建造物）を利用した禅文化歴史博物館があります。

今回は博物館に収蔵された貴重な写本のご紹介です。

道元禅師の真筆類について

道元禅師の真筆類は現今では稀少であり、その真偽判定の問題はあるものの、伝承されている筆跡・断簡類など、数十点をあげることができ、（主要参考文献参照）うち『正法眼蔵』は、まず『嗣書』の巻（草案本）断簡十四点、『諸法実相』の巻、断簡十二点があげられます。これらは、元来一つの巻であったものが、長い歴史の中で道元禅師を慕う者に分け与えられ、いわゆる「切」となっていて、所蔵先の名を冠して「永平寺切」「大乘寺切」などと称されています。

次に一冊の体を成すものとしての伝承本には、『行持下』の巻、『山水経』の巻、『祖師西来意』の巻、『嗣書』（修訂本）の巻など、わずかに数種類ほどです。

『嗣書』伝承の様相

当館所蔵の『嗣書』とは、道元禅師修訂の『嗣書』のことを指します。『嗣書』には断簡の草案本と一冊本の修訂本があり、草案本は仁治二（一一二四）年に、道元禅師が山城興聖寺（京都市伏見区、現在は京都府宇治市に移転）で著した草稿で、修訂本は寛元元（一一四三）年、道元禅師が永平寺を開く直前に入った越前吉峰寺（福井県永平寺町）において、その草案本を推敲修訂したものです。

修訂本『嗣書』は、のちに伊予西条藩主松平家に伝来し、大正三十三（一九二四）年に同家から売立に出され、京都の古美術商・里見忠三郎氏の所蔵となりました。このため「里見氏旧蔵本」と呼ばれてもいます。当時、東大史料編纂所に勤務していた故大久保道舟氏（元駒澤大学総長）によって撮影され、後に里見氏から売りに出され、以後修訂本は、故大久保道舟氏によって撮影された写真が、文末に記した主要参考文献などに掲載されてきましたが、原本の行

方は不明のままです。平成十九（二〇〇七）年、実に五十数年ぶりに再び世に姿を現しました。

また、草案本『嗣書』が断簡であるのに対し、本書は冒頭から末尾まで一紙も欠けることのない完本として極めて貴重といえます。

『嗣書』の添付資料紹介

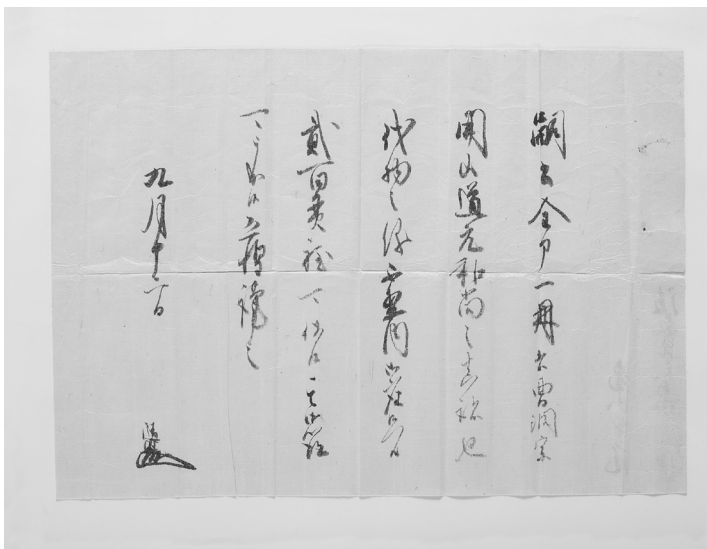
真筆本の価値は金銭で計れるものではありませんが、本書に添付されている折紙・添状・差紙と称する資料から、江戸時代の評価を推測することができます。これらは、江戸時代の古筆鑑定家・畠山牛庵（随世）によって寛文三（一六六三）年に記され、本書の鑑定書のような意味を持っています。

このうちの添状には、「曹洞宗開山道元和尚の真跡なり」と記し、「代物之儀、不案内に御座候共、貳百貫程に仕るべく候」とあつて価格格的には二百貫程の価値と評価されています。一両は四貫なので、二百貫は五十両となります。よく一両は十両程度といわれますが、江戸時代の貨幣価値は米相場を基準に変動していたので、一両が現在の何円と表現するのは困難ですが、寛文時代の一両は、米八十升分、大工の日当二十日分といわれています。また、一両あれば庶民は一ヶ月生活でき、十両盗むと死罪（「公事方御定書」一七四二年）とされていたので、五十両の価格がどれ程のものが推し測れるでしょう。

このほかにも、里見氏宛ての故大久保道舟氏の書簡（昭和十三年頃）、故飯田利行氏（元駒澤大学教授）の書簡（昭和十七年頃）なども添付されています。ともに写真撮影に対する礼状で、宗門学者による真筆本への関心のほどがうかがえます。

『嗣書』の内容

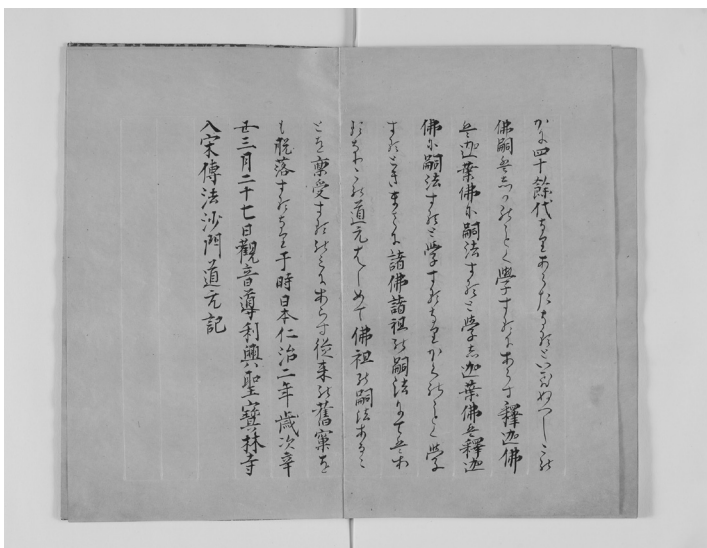
禅宗では古来、仏法を継承する「嗣法」の証として、積尊以来の系譜を書き記した「嗣書」が、師から弟子に授けられました。『嗣書』は、面授嗣法（師と弟子との仏法の人格的相承）の意義と、



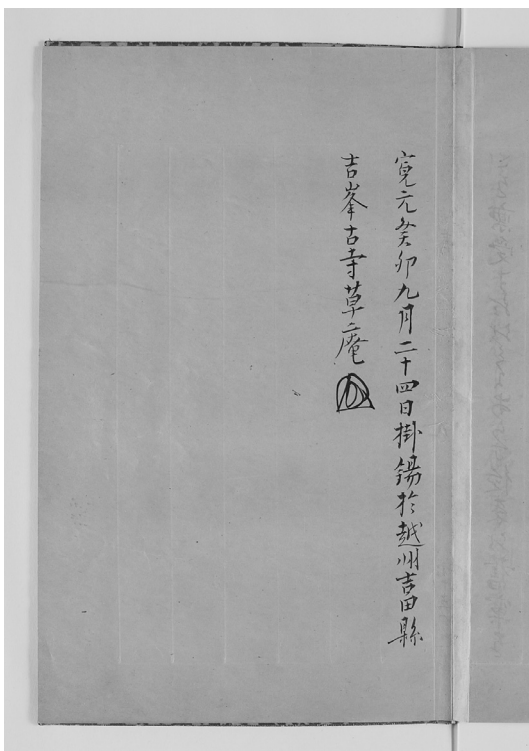
寛文3(1663)年 畠山牛庵の添状

嗣書授受の重要さを説く内容です。最初に説示場所として「観音導利興聖宝林寺」とありますが、これは、草案本を著した山城深草の興聖寺を指します。以後、一行当たり十七〜十八文字、一頁に六行ずつ配し、五十七頁に渡り計三百三十六行、約五千九百文字が仮名交じり文で綴られています。

書き出しは、「仏仏ならず仏仏に嗣法し、祖祖かならず祖祖に嗣法する」すなわち仏法の継承は必ず仏から仏へ、祖師から祖師へと伝達相承されるものと説き、ついで、積尊以来脈々と継承されてきたこと、「この仏道、かならず嗣法するとき、さだめて嗣書あり。もし嗣法なきは天然外道なり。」と、嗣法と嗣書の一如なることを明示されています。この真義に反して、近年では、実際に師より嗣書を授けられずに、ただ師の法語（仏法の道理を説いた語）と頂相（肖像画）だけを手に入れて嗣法の証とする弊風があることを批判されています。さらに中国での見聞をもとに、禅宗諸派の嗣書の書式について、その相違点などについて述べられるとともに、「白絹の表背せるにかく。表紙はあかき錦なり。軸は玉なり。長九寸ばかり。潤七尺余なり。」など、当時の嗣



草案時の署名(30葉表)



修訂時の花押(31葉表)

書の裂地、材質、大きさなどについても記されています。

最後に、師の如浄と交わされた嗣法についての問答を記し、「このとき道元はじめて仏祖の嗣法あることを稟受（ほんじゆ）するのみにあらず、従来（きんじゆ）の旧窠（きんじゆ）（誤てる考え）をも脱落するなり。」と、如浄の指導により嗣法の真義に得心された心境を述べて結んでいます。

末尾には、仁治二（一二四一）年三月二十七日、山城興聖寺にて草案を作成した旨の自署と、寛元元（一二四三）年九月二十四日、越前吉峰寺にて修訂した時の道元禅師の花押が記されています。

現在、曹洞宗門では、この『嗣書』の教えを受け、嗣書は師から授与される「室中三物」（嗣書・血脈・大事）の一つとして尊重され、嗣

法の証として重要視されています。
〈文責〉
駒澤大学禅文化歴史博物館
塚田 博

『嗣書』（修訂本）写真版が掲載されている主要参考文献
『道元禅師全集 附 道元禅師真筆集成』（大久保道舟編、筑摩書房、一九七〇年）
『永平正法眼蔵菟書大成別巻 道元禅師真蹟関係資料集』（大修館書店、一九八〇年）
『道元禅師七五〇回大遠忌記念出版 道元禅師真蹟集』（大修館書店、一九九九年）

『駒澤大学電子図書館』
URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshokan/e/index.html>

* そうせいサロン

哆々和々

最近になってふと思うことがあります。それは、「伝統・伝承」という言葉についてなのですが、その言葉のイメージには、格式であったり封建的なイメージが付いていて、自分的には少々閉鎖的な印象を持っていました。仏教、即ちお釈迦様の教えも同様に、二千年の時を刻み続けているものでもあります。伝統という言葉からは、昔から受け継がれてきたものを手から手へと渡していく、言わば保守的な感じがして、これまでの私は、それとは違うものばかりを仏教に見出そうと勤めてきました。しかしながら、この春、東大寺さまの大仏殿で大般若祈祷法要を勤めさせていただき、日本の仏教のオリジンともいうべき場所で、貴重な体験をさせていただきました。その際、大勢の方の情熱と手によって面々と受け継がれてきたものは古びたものなんかではなく、その瞬間瞬間の出会いだったのではないかと痛感いたしました。

尽きるのではない情熱と行いがなければ、幾度かの消失からの復興はあり得ず、その情熱の源は仏道に出会えばこそのものであり、その積みかさねたものの重さが東大寺を満たす荘厳さとなっていると感じました。

受け継ぐこと、それは新たな自分に出会うこと、新たな自分になることに他ならない訳で、決して化石ではなく「二千年以上に及ぶ仏教の歴史は目映いばかりの出会いという輝きの連なり」と気づかされた貴重な時間でありました。

今、私は仏教徒として、お釈迦様の教えの中で何と出会い、何を受け取ることが出来るのか、自問自答の時間を過ごしています。

この十一月には再び東大寺さまにて文字通り「千僧法要」が営まれます。ひとえに「世界平和」を願う唯一無二の機会となってくれると確信しています。

ご参加いただける皆さまと共に、新たな出会いの時間を迎えられる機会にしたいと心から願い、そして努力する所存であります。

全国曹洞宗青年会会長 芳村 元悟

編集後記

「環境問題のツボ」の連載を担当しています。七月に洞爺湖サミットが開催されメディアでも大々的に報道されましたが、北京オリンピック、福田首相の辞任など次々と起こる出来事にかき消されるかのように、環境問題の話題自体が、世間からすっかり忘れられてしまっているのが現状のようです。

企業や団体などの集団では、さまざまな環境対策がなされるようになり、以前と比べ一般の意識も確実に上がってきていますが、日本人一人ひとりが、日常生活の中で環境対策を実践していくようになるには、まだ時間がかかるかもしれません。

今号までに、環境問題の現状、環境倫理について解説していただきましたが、次号では地域における寺院のあり方について論じていただく予定です。たとえ地球温暖化の問題がなくても、資源の浪費自体はそもそも仏教的視点からは否定されるべきです。

我々僧侶が環境問題をどのように捉えたらよいのか、この連載を担当しながら勉強させていただきます。

広報委員 松岡 広也



〈お詫びと訂正〉

前号一四二号（平成二十年七月五日発行）において、訂正箇所がありました。

ここにお詫びして訂正申し上げます。

・三頁左側日程表中

（誤）「御挨拶…大本山永平寺副貫主」

（正）「御挨拶…大本山永平寺副貫首」

「そうせい」に対するご意見・ご感想、また、発送部数に関するご要望は左記の連絡先までお願いいたします。

○あて先

〒二七三〇八六五

千葉県船橋市夏見六一二十三三 長福寺内

そうせいサロン係

FAX (〇四七) 四三六六八〇八 河村まで

毎日何気に食べていても、飽きない主食がある。そう、お米。
 おかず（副食）は、品を替えて飽きさせないで調理にあたるが、
 このお米だけは、毎日食べても飽きない。何とも言えぬ存在感の
 主食、「お米」にスポットを当ててみる。

食欲の秋こそ 飽きない「お米」



とろろ昆布とじゃこ、黒ごま塩とおかか、
 白ごま塩と小梅、白ごまと醤油ダレ、
 ひじきと紫蘇ごはんおむすび



秋こそ混ぜご飯で楽しいひと時を

世界中で栽培されているお米の種類は、およそ千種類にもなると言われている。これほど種類のある中で、おおきく三種類の分類となる。

① ジャパニカ米

普段私達が食べている日本の稲で出来ていて、形は丸くて短く炊いた時はねばりがあり、日本人好みの米である。

② ジャバナカ米

ジャワ型の稲で、種類の中では一番大粒。主にインドネシアを中心に食べられていて、アジアの熱帯高地やアメリカ、アフリカなどで多く作られている。

③ インディカ米

インド型の稲で、世界中で一番栽培されている種類になり、形は長細く粘りが無くパリパリしているの、カレーやピラフにあう米です。（タイ米もこの一種）

水田にお米の元となる稲を育てる目的として、水を蓄えるということには普段実感としてないが、こんな恵みがある。

大雨の時には雨水を蓄えて、洪水を防ぐ機能があり、雪解け水や梅雨の雨水を蓄え、やがて下流に戻す働きがある。

稲と水田は私達の食糧と生活の安全を支え守ってくれている。秋到来、弁当を持って外に出掛ける人あれば、気軽にサラサラ茶漬を好む人もいる。いづれにしても、毎日白いご飯を食べられる事に有り難さを感じる。



青森県田舎館村で毎年行っている「田んぼアート」です。今年の題目は「恵比寿様と大黒様」です。縦143メートル×横104メートル（平成20年9月筆者撮影）

文 白澤 雪俊（しらさわ せつじゅん）
 昭和三十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学（仏教科）に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に随身（住職にお仕えし学ぶ修行僧）として過ごした後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間の中、約三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平

寺東京別院長谷寺副典として再安居。現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。第十七期全国曹洞宗青年会青少年教化委員会副委員長。
 著書「身体にやさしい料理を（つづ）」（ニコトプレス）
 ホームページアドレス
<http://www6.ocn.ne.jp/~yamakan/>



残暑厳しき八月下旬、『ひだまりの会』という遺族の集いを見学させていただきました。大阪の葬儀社が主催する会合です。私は午後の部から見学させていただきましたが、前半約一時間は、参加者が数名のグループに分かれての「分かち合いの集い」。いつもはテーマを設定してのトークだが、今回はフリートークとの事。ランダムに編成されたグループメンバーゆえ、初めて会話を交わすという方も居たとのことですが、どのグループも、膝を突合せて「旧知の友」の如く話はずんずんと、話し手のほうに顔を向け、頷き、相槌を打ち、時には笑いあい。「遺族」という言葉は「悲しみくれた人びと」を想起させますが、会場の熱気と明るさは、私が抱いていたイメージを見事に粉砕してくれました。



後半はハワイアンコンサート。バンド演奏、そこにヴォーカルも加わったの演奏。そして曲に合わせてフラダンス公演もありました。参加者の中には「フラダンスを習っている」という方も居られ、ダンサーの動きに合わせて体を動かしていらつしゃいました。心から楽しんでおられる様子が伝わってきました。ひだまりの会のコーディネーターとして活躍されているのは出口久美さん。彼女は、ここに集う方がたを「大事な人を亡くしていなかつたら、出逢わなかつた人びと」と表現されました。そこでの出逢いをどのようにして悲嘆ケアに繋げていくか。その取り組みについてお話を伺ってまいりました。

あまんず 恵道

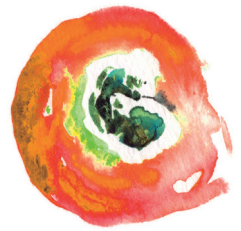
あまんずの⑤ 死別の悲嘆に「ひだまり」を 前編

燎ホールディングス・グループ 株式会社「ひだまりの会」事務局

出口久美 × **飯島恵道**
でぐちひさみ いいしま けい どう

1944年、愛媛県生まれ。専業主婦を経て、子育て中に保育士となる。1999年、公益社お客様サービス室の開設時から関わり、6000人以上の遺族の生の声を聞く。その経験を活かし、現在、ひだまりの会事務局長としてグリーンケアに携わっている。

長野県松本生まれ。尼寺育ち。看護師としての経験を生かし、医療と宗教の領域を横断する“あまんず (amans=ama(尼)+ ns(ナース、看護師))”として活動中。



葬儀社のグリーンケア

飯島 以前、日本ホスピス・在宅ケア研究会の飛騨・高山大会(二〇〇七年)に伺った時に、初めて出口さんをお見かけして、『ひだまりの会』の活動もその時お聞きしました。今回、改めて『ひだまりの会』の会報(年二回発行)を送っていただいて拝見しまして、グリーンケア(遺族の抱える死別の悲嘆)ケアに特化したたいへんすばらしい活動をされているなと思えました。

出口 葬儀社と遺族ってというのは、葬儀が終わればずっと距離感があつたと思うんですね。葬儀側は声を掛けたいって思いはあつたかも知れないけど、ご遺族にしてみたら「何か余計に求められるんじゃないか」とか。公益社も長い長い歴史のある会社ですけど、やっと五年前に、ご遺族のお役に立てることがないだろうかって手を差し伸べたのは、すばらしいことだと思いますね。

飯島 そうですね。きっかけがやはり(会社)の上の方が、ご遺族(の悲嘆)に関わっていくのが大切だと見方を変えてからですね。

出口 そうですね。いつも何か行動を起こしたり決断をする時は、やっぱり相手の立場に立つことが、すごく大切だと思うんですね。相手の思いを受け止める中で

それを実行に移していくと、自ずと企業としての成果も出てくるんじゃないかと思っています。自グループではなく(企業である)葬儀社が運営しているのが、この会の特徴ですね。

「ピンチをチャンス」に

変えた電話によるケア

出口 私たちが『ひだまりの会』に取り組んだ五年前には前例がなかったもので、常に試行錯誤でやって参りました。

飯島 初回の月例会(二〇〇三年)は数十人の参加者があつたのに、二回目になつたら十名ちょっとまで落ち込んだ。それで出口さんは一名一名、初回の月例会に参加された方にお電話をされたそうですね。

出口 最初の二、三ヶ月は、「何故来ていただけないのか」との思いから、再度コールすることに徹しておりました。そこで、月例会だけでは聴けない会員の本音が聴けたんですね。それから「見守りコール」といって、その人たちを電話でケアしていこうと思いついたんですね。一人一人の思いを受け止めなければ、この活動は私たちの自己満足で終わってしまうなって思いました。あの時期がなければ今もないんじゃないかと思っています。

飯島 お電話は出口さんがお一人

で掛けられたんですか？

出口 当時は。わたしも未熟ですから良いコールが出来たかは分かりませんが、(月例会で)一度お目にかかっていますので、そこには少し信頼関係が生まれていましたから、本当に色んなことを仰って下さいました。そこも正にグリーンフケアの現場でしたよ。例えば、初めて来られた時に、私にすがって泣いた方がいたんですね、私と同年輩の女性でね。当時の彼女は「葬儀当日のトラブルとか、親戚の何気ない一言とかのため

したら、今までご主人と歩いている時は目につかなかったのに、今日一人で歩いてみたら、そこにずつと前から咲いていた花なんですけど、「出口さん、私の方を向いて咲いてくれるのよ」って。彼女は、その花にご主人の名前を付けて、その株を取ってきてマンションのベランダに育てて、「出口さんまた今年も咲いた」ってコールで報告されながら、その花と出を暮らしていらつしやいます。

とで、時間をかけて少しずつずつ、心の中で整理が出来たんでしょうね。

分かち合い、そして自立へ

飯島 今日月例会の午後の部では、死別の体験から結構時間の経った方が多いのかなって思っています。

出口 大半は三回忌前後の方ですね。初めて月例会に参加する方もこの中に入つていらつしやいます。それぞれ悲嘆に対する温度差は、非常にあります。でも、(悲

飯島 素敵なお話ですね。やはりお電話で出口さんとお話しするこ

差は、非常にあります。でも、(悲

グリーンフケアに特化したすばらしい活動ですね。(飯島)

相手の思いを受け止め実行することが、企業にとっても大切です。(出口)



『ひだまりの会』会員から出口さんへ送られた手作りの「感謝状」。出口さんへの人気と信頼の高さが伺われる

嘆を乗り越えた経験として)一歩前を歩いている方とお話することによって、癒されたり気づかされたり、また支えてもらえることもあるんです。

飯島 自分一人で考えても、悲しみの堂々巡りですものね。でも少し時間が経てば、「ああいう風に考えられるんだ」っていうのが分かるよ。口で言うよりもそういう方がたに実際に会っていただいで、接することが大きいことなんです。午前中の部は拝見出来なかつたんですが、悲しみが大きくて泣かれる方もいらつしやるんでしょうね。

出口 (参加回数が)四回くらいまでは午前中のグループに入っていたんだけど、午後の大きなグループに入っていたんだけど自己選択していただくんです。私そこがまたひとつの「自立」だと思ってるんです。自己決定していくことが、人生を丁寧に生きることに繋がっていくのではないのでしょうか。自分の人生だから。誰も決めてくれません。だから私は、会員をサポート出来ると思ってるんです。自立の場を提供していると思ってるんです。

飯島 スタッフの方はボランティアですか？

出口 社員が若干名います。あとは月例会の時は会員の方がボラン

ティアで手伝っています。

飯島 今日も前で司会をされていたのは会員の方でしたね。とても良いことですよ。あんな進行役を買って出る心境になるまで時間がかかったと思うんですけど。

出口 百人百通りです。中にはどうしても大きいグループに入れな人もいて、それも含めて自己選択なんです。

飯島 自分たちで率先して何かやろうっていう会員さんがいることは参加者としても張り合いになりますよ。自立した姿ですものね。(つづく)

ひだまりの会
創業昭和七年の葬儀社、燦ホールディングス(東証・大証一部上場)グループ(株)公益社(本社・大阪市)が、社会貢献活動の一環として、二〇〇三年十二月から運営を始めたグリーンフケアサポートの会。講演会や会員による体験発表、小グループによる「分かち合い」などが行われる月例会(毎月第三日曜日)や、「わいわい食堂(男性向けの料理教室)や「ひだまり亭」(落語会)など、会員有志による個別の分科会などの活動を行っている。現在会員は四百名余り。
事務局
〒五三〇-〇〇四一
大阪市北区天神橋四一六四十二
TEL: 〇六-八八八二二一七〇
FAX: 〇六-八八八二二一九七
E-mail: hidamari@koekisha.co.jp

高台寺の木像の掛絡(一)

愛知学院大学教授 川口高風

曹洞宗の袈裟に学ぶ 第7回

高台寺に祀られている北政所、木下家定、その妻おあこの木像の掛絡を背面から図示してみると(図1)のようになる。北政所と家定夫妻の二本の棹の位置は異なり、北政所の棹は、マネキの上部が外側に、下部が内側になっており、一休宗純の大掛絡とは反対になっている。このような棹の例は他にみることがない。ともに寿像として高台寺の曹洞宗時代の掛絡とみられるが、同時代の掛絡を搭けた曹洞宗の他の外護者の木像と比較しながら考察を加えてみよう。

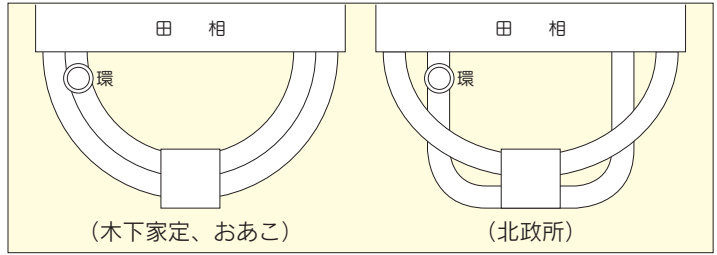


図1 背面からみたマネキと棹

佐賀県杵臼郡白石町の法泉寺には中興開基の龍造寺隆信(二五二九―一八四)の掛絡を搭けた木像が安置されている。隆信は掛絡を搭けた肖像画も宗龍寺(佐賀市水ヶ江)にあり、扇子を手に持ち侍烏帽子を被り大紋姿で放埒たる髭を蓄えた武将らしい姿である。(図2)

隆信は薩摩の島津氏、豊後の大友氏とともに九州の三傑といわれ、享禄二年(二五二九)に水ヶ江の龍造寺周家の嫡子として生れた。七歳の時出家したが、龍造寺家兼が没したため還俗して胤信と名のり家督を継いだ。その後、守護の大内義隆より「隆」の一字を与えられ隆信と改称した。肥前を統一し筑後、筑前、豊前、肥後、豊後、対馬を攻略して五州二島の太守とも称されている。

木像は江戸初期のものだと推定されており、像の右手が欠損したり彩色の剥落も著しい。剃髪し掛絡を搭けているが脇差をさしている。掛絡の棹は少し長めで、木下家定夫妻の木像と同じくマネキの上部にある棹は内側になって環がついており、下部にある棹が外側となっている。(図3・4) 画かれた

高台寺の木像と他の木像との比較



図4 龍造寺隆信木像の背面



図3 龍造寺隆信木像



図2 龍造寺隆信画像

田相は三条になっているが、比較的大きいところから左右にタツクを施した状態である。

乾坤院(愛知県知多郡東浦町)は文明七年(二四七五)、初代緒川城主水野貞守が一族の菩提寺として逆翁宗順(一四三三―一三八)を請じて創建した寺である。水野氏の外護の下に知多、三河に門葉を広げ、境内には水野氏四代の墓所や水野氏歴代の位牌を祀った堅雄堂があり、そこには掛絡を搭けた水野忠政(一四九三―一五四三)と水野忠善(二六一二―一七六)の木像がある。

堅雄堂は寛文十年(一六七〇)に岡崎城主水野忠善が先祖の供養と曾祖父の忠政を顕彰するために建立したもので、忠政の木像と自分の木像も安置した。忠政は徳川家康の母於大の方の父で、その子孫は譜代の名門として江戸幕府の要職に就く者も多かった。

忠政は坐像、忠善は胡跪像で二人とも刀と脇差をさしている。正面からみると剃髪したかのように見えるが、髭はついている。(図5・6・7・8)

宝暦九年(二七五九)の「校割牒」によれば、忠政は木扇子、忠善は如意を持っていたと記されているが、現在は二人とも何も持っていない。忠正は青色の掛絡、忠善は朱で雲が画かれた掛絡を搭け



図7 水野忠善木像



図5 水野忠政木像



図8 水野忠善木像の背面



図6 水野忠政木像の背面

高台寺での調査にあたっては同寺執事後藤典生師と真神啓仁師にたいへんお世話になった。織田有楽木像の調査は正伝永源院住職眞神仁宏師のお取り計らいを得た。ここに厚くお礼を申し上げます。

より江戸初期の掛絡は曹洞宗とか臨済宗とかの区別はなかったようである。棹の太さ、長さに違いはあるかもしれないが、禪宗として同じスタイルの掛絡が用いられていたものと想像できる。したがって、北政所の木像が曹洞宗時代の高台寺に寿像として祀られたとしても、臨済宗に転宗してから祀られた遺像であったとしても、掛絡は同じものであったと考える方が正しいように思われる。もちろん木下家定夫妻の木像も同じである。

有楽は生前中、自分の木像を彫らせており、再興して隠居所とした建仁寺塔頭の正伝院（現在、正伝永源院）に安置した。同院に所蔵する古澗慈楯が元和八年（一六二二）に贊を記した肖像画

にも類似しており、同時期の製作と考えられている。（図9）
右手に中啓を持ち、左手を膝に置いて堂々とした風貌である。金襴の牡丹唐草模様のある大掛絡を搭けており、向って外側の棹が太く、田相は左右にタックが施されている。（図10）マネキは龍造寺隆信や水野忠政、忠善と同じ形であるが横長になっている。（図11）

現在、掛絡を搭けた武将などの肖像画をリストし整理しているが、掛絡を搭けた木像はなかなかみつからない。肖像画のある武将に木像が存在するかは調査中である。また、掛絡を搭けた禅僧の木像もみつつかっていない。それらの発見によって木像が製作された時代の掛絡の実体を明らかにできるものと考えている。掛絡を搭けた木像の情報をお知らせいただければ幸甚である。



図11 織田有楽木像の背面



図10 織田有楽木像



図9 織田有楽画像

仏のモノサシ

良寛と妙好人の世界 久馬慧忠著

赤尾の道宗、源左、才市、六連鳥のおかる、お園、庄松など、他力の信心に生きた代表的な妙好人と良寛の生涯を明かす。1,575円

暮らしのなかの仏法

川口義照著

日常の生活のなかで起こる出来事にも感じられる仏さまの知恵と願い。毎日を豊かに生きるための心あたたまる禅の法話。1,575円

禅宗小事典

石川力山編著

禅宗三派（曹洞宗・臨済宗・黄檗宗）の思想・歴史・仏事がわかる基本517項目をやさしく解説したコンパクトな小事典。2,520円

柳田聖山集

全6巻

柳田聖山著

50年にわたり禅学研究の第一人者として発表された多数の著作のうち、特に学術的専門性の高いものを選んで集大成する。詳細索引付。

【既刊】

第1巻 禅仏教の研究 26,250円／第2・3巻 禅文献の研究 上・下 24,150円／第6巻 中国仏教の研究 18,900円

【続刊】

第4巻 臨済録の研究／第5巻 中国仏教の研究（価格未定）

明治前期曹洞宗の研究

川口高風著

日本の宗教界が変革をせまられた明治時代に、曹洞宗はどのような近代化を行ったか。豊富な史料を基に読み解く。16,800円

平成20年度禅文化学林開催予定

謹啓 晩秋の候

各会員様並びにご寺院様におかれましては、益々ご清祥の段大慶に存じ上げます。平素より全曹青の活動に、ご理解とご賛助を賜り厚く御礼申し上げます。この度、「平成20年度禅文化学林」を下記要領にて全日本仏教青年会主催の「東大寺千僧法要」と併催することになりました。つきましては、諸事ご多繁の折とは、存じますが、是非ご参集賜りますようお願い申し上げます。

謹白

講師 藤田 一照 老師 『伝承』 ～伝えること、築くこと～

1954年愛媛県生まれ。東京大学大学院教育学研究科教育心理学博士課程中退(発達心理学専攻)後、曹洞宗紫竹林安泰寺にて得度。1987年から約18年間アメリカ東部 マサチューセッツ州 にあるヴァレー禅堂に住持し近隣の大学や瞑想センターなどで禅の指導を行う。共著に『新ころのシルクロード』、訳書に『禅への鍵』、『ダルマの実践』、『フィーリング・ブッダ』などがある。2005年3月に帰国。

【お問合せ先】

事務局長 高垣 晶敬

北海道札幌市中央区南4条西27丁目1-1 龍興寺内
Tel 011-561-6055 携帯 090-1647-5475

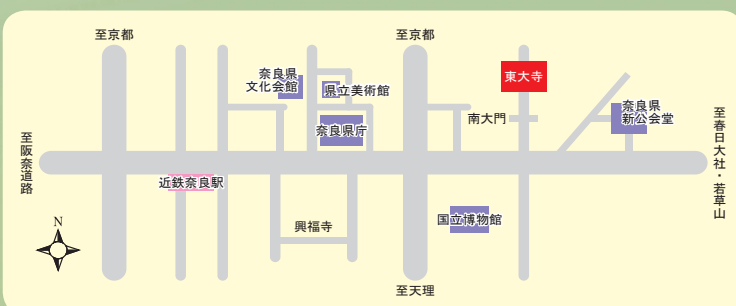
総務委員長 森 如謙

岐阜県恵那市長島町正家265-1 円通寺内
Tel 0573-26-4884 携帯 090-7852-6117

- ※法要には黒衣、袈裟(木蘭)、足袋、雪駄でお願いいたします。
- ※昼食はお弁当をご用意いたします。
- ※宿泊に関しましては、各自でお手配をお願い申し上げます。
- ※参加費は、当日受付にてお支払い下さい。
- ※駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用下さい。
- ※11時半の集会までにはご参集下さい

東大寺 交通アクセス

- 近鉄(奈良線・京都線)
「奈良駅」下車 東へ徒歩20分
- JR(関西本線・奈良線)
「奈良駅」から奈良交通バス



期日

平成20年11月17日(月)

場所

奈良東大寺

禅文化学林講師

藤田一照老師

参加費

千僧法要・禅文化学林登録料 2,000円

レセプション 8,000円

日程詳細

受付開始(新公会堂) 9:30

食事(弁当)・装束 10:30

集会 11:30

大仏殿へ行列出発 12:00

大護摩供開式 13:15

大護摩供終了、行道 13:50

新公会堂到着 14:30

禅文化学林講演会 15:30

禅文化学林終了 16:30

レセプション 17:00

閉式 19:00